

I. 平成20年度事業報告

1. 会勢報告

{総務担当：齋藤 真}

【総 数】

(単位：人)

会 員	平成20年4月1日	平成21年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減
		1,909	1,887	92	114

会員資格
変更

正会員:	1,772	1,754	70	96	-26	+8
準会員:	137	133	22	18	+4	-8

【内 訳】

(単位：人)

支 部	平成20年4月1日	平成21年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減 () : 支部間 の移動
北 海 道	47	50	4	2	+2(+1)
東 北	61	62	4	3	+1(0)
関 東	1,074	1,071	54	54	0(-3)
東 海	165	160	6	10	-4(-1)
関 西	332	327	21	27	-6(+1)
中 国・四 国	127	118	3	12	-9(0)
九 州	85	80	0	5	-5(0)
国 外	18	19	0	1	-1(+2)
賛 助 会 員	40社 41口	39社 40口	1社 1口	2社 2口	-1社 -1口

2. 事業報告

{総務担当:斎藤 真}

- (1) 日本人間工学会の一般社団法人化を実現するため、法人化業務を法人化担当から総務担当に引き継ぎ、平成 21 年 6 月開催の評議員会および定期総会において審議する定款案の作成を行った。また組織体制、各種規程の見直し等の準備を行った。
- (2) 第 49 回大会を間壁治子大会長のもと平成 20 年 6 月 14 日～15 日に共立女子大学において開催した。
- (3) 評議員会および定期総会を平成 20 年 6 月 14 日に共立女子大学において開催し、平成 19 年度事業報告・収支決算および平成 20 年度事業計画・収支予算を審議の上、決定した。
- (4) 理事会を 5 月 24 日、6 月 13 日、9 月 26 日、11 月 19 日、1 月 30 日、3 月 18 日の計 6 回開催した。
- (5) 機関誌「人間工学」の第 44 巻 2～6 号および第 45 巻 1 号の計 6 冊を発行した。
- (6) 認定人間工学専門家に関する事業活動においては、認定試験(A 方式試験)を実施し合格者が 2 名、また筆記試験免除条項を適用した資格認定試験(B 方式試験)についても 1 回実施し 3 名が合格し、これら 5 名について登録手続きを経て認定工学専門家資格の登録認定を行った。平成 20 年度末現在の認定人間工学専門家は 160 名、準専門家 32 名である。専門家資格の再認定を促進し、100 人が再認定された。その他、ガイドブックの改訂、グッドプラクティスデータベース作成への協力、コンサルティング依頼への協力などを行った。
- (7) 常設委員会・担当である広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159 国内対策委員会、表彰委員会、日本学術会議担当と臨時委員会・担当である企業の人材育成プログラム開発委員会(新設)、人間工学実験ガイドライン検討委員会(新設)、人間工学技術戦略委員会、支部・部会・大会担当、法人化担当において各事業を進めた。
 - 広報に関する事業活動においては、グッドプラクティスデータベース(GPDB)の第 2 期以降の募集・掲載の企画ならびに実施、人間工学の啓発を目的としたリーフレット作成を行った。「学生・企業の架け橋プロジェクト」を企画、公開講座 2009 の開催企画の支援および GPDB 掲載企業によるパネル展示等を行った。またサーバー機の容量増設等を行った(広報委員会)。
 - 編集に関する事業活動においては、学会誌の定期発行業務を遂行するとともに、奇数月に通常編集委員会、偶数月に電子編集委員会を開催し、査読業務の効率化・迅速化を進め、投稿原稿の査読期間の短縮化を図った。学会誌に紹介コーナーや既設研究部会による研究部会総説を設けるとともに特集号を創設することとした(編集委員会)。
 - 国際協力に関する事業活動においては、IEA(国際人間工学連合)理事会(レイキャビク)に参加したのをはじめ、JES・ESK(大韓人間工学会)合同シンポジウム 2008(共立女子大学)への対応など、様々な国際活動に対応した(国際協力委員会)。
 - ISO/TC159 国内対策に関する事業活動においては、FDIS、DIS 等の規格原案に関する計 45 件投票を行うとともに、国内委員会の開催および国際会議出席によって 18 件の ISO 規格の発行に寄与した(ISO/TC159 国内対策委員会)。
 - 表彰に関する事業活動においては、平成 20 年大島正光賞、同研究奨励賞、平成 20 年度研究発表奨励賞等の運営業務を行うとともに、既設の表彰制度における選考基準の改定、功労賞選考基準の策定等、表彰制度の整備を進めた(表彰委員会)。
 - 日本学術会議に関する事業活動においては、日本学術会議からの発信情報を HP に掲載、また JES 公開講座の後援を取得するなど連携強化に努めた。また日本学術会議主催の安全工学シンポジウム 2008 に関する運営、準備に参加するとともに、同シンポジウム 2009 の幹事学会として 2009 年 7 月 9 日、10 日の開催に向け実行委員会、企画運営委員会を組織し、実施の準備を行った(日本学術会議担当)。
 - 企業の人材育成プログラム開発委員会に関する事業活動においては、人間工学の更なる実践的活用と社会への普及を図るために、企業人向け人間工学教育シラバスの作成を行った(企業の人材育成プログラム開発委員会)。
 - 人間工学技術戦略の検討に関する事業活動においては、人間工学技術戦略ロードマップのローリングを行うとともに、他学会等による関連技術戦略ロードマップ作成に協力する計画の下、活用方法についても検討した(人間工学技術戦略委員会)。

- 支部・部会・大会担当に関する事業活動においては、支部長、部会長会議を開催するとともに、アンケート調査を行い、支部・部会・大会における課題やその改善案及び対応策を検討し、12月末に理事会に答申した（支部・部会・大会担当）。
 - 法人化担当に関する事業活動においては、2008年12月に施行された一般社団法人及び一般財団法人に関する法律に基づき、これまでの事務手続きを総務担当へ引き継ぐこととした（法人化担当）。
- (8) 支部活動、研究部会活動の活性化を進めるとともに、支部長・部会長会議（平成20年6月13日）を開催し、今後の支部、部会のあり方について検討を行った。法人組織への移行にともない、支部・部会の体制を整備していくこととした。7支部と航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学部会、口と健康部会、情報社会人間工学研究部会、聴覚コミュニケーション部会、医療安全研究部会、衣服人間工学部会、人間融合ロボット分野アカデミックロードマップ研究部会、触覚インタラクション研究部会の計11研究部会が活動を行った。
 - (9) 大韓人間工学会との協力協定に基づいて、JES/ESK 合同シンポジウムを共立女子大学において日本人間工学会第49回大会と同時に開催した。
 - (10) 賛助会員を対象とした講演会を一般に向けた人間工学啓発のための公開講座と改め、平成21年3月19日に東京において開催し、「人間工学の活用と実践、－安全で安心できる社会を実現するために！－」を主題に、酒井一博氏、榎原毅氏、横井孝志氏、小松原明哲氏の講演およびパネル展示等を行った。
 - (11) 人間工学に対する社会的ニーズに的確かつ迅速に応えるために、横幹連合への参加、経済産業省との連携によるロボット分野のアカデミックロードマップへの参加、安全・安心関連事業の調査、府省共通研究開発管理システム（E-Rad）研究機関コード取得など、他学協会等との共同事業を広く展開した。
 - (12) 平成20年研究奨励賞の受賞論文を決定し、受賞者に同賞を授与した。また平成20年度優秀研究発表奨励賞の受賞者を決定し、同賞を授与した。
 - (13) 関連学術団体等との連絡および協力として、38件の共催・協賛・記事掲載等を行った。
 - (14) 会員管理業務の外部委託を行い、事務局の業務運営の効率化を図った。

3. 担当・委員会活動

[常設委員会・担当]

3-1. 広報委員会

{委員長: 吉武 良治}

本委員会発足時に掲げた任期内事業に基づいて、積極的に広報活動を行った。7回の委員会を開催し、また電子メール会議等にて広報活動を推進した。主な活動は以下の通り。

- (1) H19年度に開設したグッドプラクティスデータベース（GPDB）に関しては、第2期以降の募集・掲載を企画、実施し、さらなる充実、普及へむけた活動を行った。特に第2期以降ではガイドライン部門を新設し、グッドデザイン部門、グッドプラクティス部門とともに公開した。またGPDBのロゴを作成、公開し、掲載企業/団体からGPDBへの相互リンクも増えている。
- (2) 人間工学の啓発を目的としたリーフレットを作成し、ホームページに掲載した。また第49回大会では参加者全員に配布し、人間工学の認知度向上のための活動を行った。
- (3) 「学生・企業の架け橋プロジェクト」を企画し、第38回関東支部大会にて実施した。具体的には「人間工学を生かす就職OB/OGを囲んで」と題する就職活動座談会を開催し、18名の学生が参加、様々な企業で活躍している5名のOB/OGと有意義なディスカッションを行った。
- (4) 公開講座2009の開催企画を支援し、GPDB掲載企業によるパネル展示等を行った。
- (5) 学会が使用しているサーバー容量を増設し、比較的大きなファイルサイズの資料も掲載できるように変更し、余裕をもった運用へ移行した。

(6) ホームページを活用し、重要ニュースのお知らせ、学会主催／協賛等のイベントの案内などを広報した。以下に掲載ニュース例を示す。

- ・一般社団法人日本人間工学会の設立に関する情報の掲載
- ・本学会に関連した学術会議情報、横幹連合情報などの掲載
- ・「人間工学 ISO/JIS 規格便覧 2008」の掲載

3-2. 編集委員会

{委員長:加藤 象二郎}

(1) 学会誌「人間工学」の編集・発行状況

- ・平成 20 年 4 月：第 44 巻 2 号(72 ページ)原著 7 編、資料 1 編 他
- ・平成 20 年 6 月：第 44 巻 3 号(53 ページ)原著 4 編、短報 1 編 他
- ・平成 20 年 8 月：第 44 巻 4 号(65 ページ)総説 1 編、原著 4 編、短報 2 編、資料 1 編、他
- ・平成 20 年 10 月：第 44 巻 5 号(59 ページ)総説 1 編、原著 3 編、短報 1 編、技術報告 1 編、紹介コーナー 1 編 他
- ・平成 20 年 12 月：第 44 巻 6 号(59 ページ)総説 1 編、原著 5 編、短報 1 編、紹介コーナー 1 編 他
- ・平成 21 年 2 月：第 45 巻 1 号(70 ページ)原著 6 編、短報 1 編、資料 1 編 他

(2) 編集委員会の開催

奇数月に編集委員会を開催し、必要に応じて偶数月には電子編集委員会を開催した。

(3) 投稿数および査読者数

投稿された原稿数とそれに対する査読依頼者数は以下のとおりであった。平成 20 年度の投稿総数は 75 編、査読者数は 196 名であった。

- ・平成 20 年 5 月(第 6 回委員会)
投稿数 14 編(総説 1 編、原著 12 編、短報 1 編)：査読依頼者数 40 名
- ・平成 20 年 7 月(第 7 回委員会)
投稿数 18 編(総説 2 編、原著 12 編、短報 1 編、資料 3 編)：査読依頼者数 47 名
- ・平成 20 年 9 月(第 8 回委員会)
投稿数 11 編(原著 9 編、短報 2 編)：査読依頼者数 29 名
- ・平成 20 年 11 月(第 9 回委員会)
投稿数 10 編(総説 1 編、原著 6 編、短報 2 編、資料 1 編)：査読依頼者数 25 名
- ・平成 21 年 1 月(第 10 回委員会)
投稿数 14 編(原著 11 編、短報 2 編、資料 1 編)：査読依頼者数 37 名
- ・平成 21 年 3 月(第 11 回委員会)
投稿数 8 編(原著 4 編、短報 2 編、資料 2 編)：査読依頼者数 18 名

(4) 紹介コーナーの継続と特集号の創設

第 41 巻 4 号より学会誌に「紹介コーナー」を設け、研究室等紹介、学会等への参加記録、活動記録、書評などを紹介している。

・特集号について

学会誌に新たに「特集号」を創設し、毎巻 5 号を特集号とすることとした。第 1 回の特集号は 44 巻 6 号とし、「癒しの人間工学」を特集号テーマとし発刊した。

・研究部会総説について

原則として学会誌の偶数号(第 44 巻 3 号よりスタートし、以下 4, 5 号)に、既設研究部会による会員への活動報告の観点から当該領域の「総説」を設けることとし、現在編集委員会で決めている順番で執筆依頼を行っている。

(5) 投稿用紙規程について

投稿用紙はホームページ内の編集委員会ページよりダウンロードできる各種電子版書式を掲載した。

(6) 編集委員会のホームページ更新

第17期編集委員会のホームページを更新した。また、発行済みの学会誌第44巻6号までの目次を検索できるようにホームページ内の情報を更新した。

(7) 査読期間の短縮

迅速な査読を心掛けるため、平成16年10月（第16期編集委員会）から続けている副査の査読期間短縮（従来1ヶ月であったものを2週間に短縮）を継続した。

(8) 掲載までの最短日数

投稿原稿の受付から掲載可となった期間は最短で4ヶ月、その平均は6~7ヶ月（前年度は6~7ヶ月）であった。

(10) 投稿原稿の採択率

第17期編集委員会が平成20年度に受付けた投稿原稿は77編で、採否の結果がでた投稿原稿51編のうち、採択されたのは42編（採択率82.4%）であった。なお、筆頭著者が学会員の投稿原稿62編中、採否の結果がでた投稿原稿42編のうち、採択されたのは37編（採択率88.1%）で、筆頭者が非学会員の投稿原稿15編中、採否の結果がでた投稿原稿9編のうち、採択されたのは5編（採択率55.6%）であった。

(11) 大島賞・研究奨励賞について

・平成21年大島正光賞・研究奨励賞について選考結果を表彰委員会に報告した。

3-3. 国際協力委員会

{委員長:堀江 良典}

(1) IEA 理事会:平成20年8月9日~8月10日 レイキャビク(アイスランド)

学会から council member として堀江委員長・小谷委員が出席。各国の年次活動報告として日本からは人間工学グットプラクティスデータベース、資格制度の現状、JES ロードマップの進捗状況などを中心に報告した。

(2) 委員会開催

担当理事による会合を4回開催。その他E-mailによる緊密な連絡を実施

(3) 理事会審議・報告

ESK/JES Joint Symposium 2008 への対応、IEA 会費など

(4) 国際交流

・日韓ジョイント・シンポジウム

共立女子大学において、6月15日に日本人間工学会第49回大会と同時開催、25件の一般発表が行われた。

(5) 国際活動関連記事

第44巻5号 2007年 IEA 理事会、第40回北欧人間工学会参加報告(小谷賢太郎、堀江良典)

第44巻5号 IEA 2009 北京 PR

第44巻6号 AHFE 参加報告(細野直恒)

3-4. ISO/TC159国内対策委員会

{委員長:横井 孝志}

(1) 委員会開催、国際会議出席状況

1) 国内委員会:全体会議4回、分科会64回

2) 国際会議出席状況:32回の国際会議に延べ120名出席

(2) 発行規格、投票

1) 新 ISO 規格:18件

・ISO 7250-1:2008 Basic human body measurements for technological design — Part 1: Body measurement definitions and landmarks

・ISO 1503:2008 Spatial orientation and direction of movement — Ergonomic requirements

・ISO 9241-151:2008 Ergonomics of human-system interaction — Part 151: Guidance on World Wide Web user

interfaces

- ISO 9241-20:2008 Ergonomics of human-system interaction — Part 20: Accessibility guidelines for information/communication technology (ICT) equipment and services
- ISO 9241-171:2008 Ergonomics of human-system interaction — Part 171: Guidance on software accessibility
- ISO 9241-300:2008 Ergonomics of human-system interaction — Part 300: Introduction to electronic visual display requirements
- ISO 9241-302:2008 Ergonomics of human-system interaction — Part 302: Terminology for electronic visual displays
- ISO 9241-303:2008 Ergonomics of human-system interaction — Part 303: Requirements for electronic visual displays
- ISO 9241-304:2008 Ergonomics of human-system interaction — Part 304: User performance test methods for electronic visual displays
- ISO 9241-305:2008 Ergonomics of human-system interaction — Part 305: Optical laboratory test methods for electronic visual displays
- ISO 9241-306:2008 Ergonomics of human-system interaction — Part 306: Field assessment methods for electronic visual displays
- ISO 9241-307:2008 Ergonomics of human-system interaction — Part 307: Analysis and compliance test methods for electronic visual displays
- ISO/TR 9241-308:2008 Ergonomics of human-system interaction — Part 309: Organic light-emitting diode (OLED) displays
- ISO/TR 9241-309:2008 Ergonomics of human-system interaction — Part 309: Organic light-emitting diode (OLED) displays
- ISO 9241-410:2008 Ergonomics of human-system interaction — Part 410: Design criteria for physical input devices
- ISO 11064-5:2008 Ergonomic design of control centres — Part 5: Displays and controls
- ISO 15743:2008 Ergonomics of the thermal environment — Cold workplaces — Risk assessment and management

2)投票 : FDIS 8件、DIS 1件、CD 9件、見直し 21件、NWIP 6件

(3)分科会活動

- | | | |
|---------------------------------------|---------|------------|
| 1)SC1(人間工学の一般原則) | 主査:青木和夫 | |
| •WG1+2(作業システムの設計原則、精神作業に関する人間工学的指導原理) | 主査:柳堀朗子 | 分科会 1 回開催 |
| 2)SC3(人体寸法と生体力学) | 主査:横井孝志 | 分科会 3 回開催 |
| •WG1(基本人体測定項目) | 主査:横井孝志 | |
| •WG4(筋力:手作業と許容限度) | 主査:石川文武 | |
| 3)SC4(人間とシステムのインタラクション) | 主査:山本 栄 | |
| •WG1(制御器と信号表示法の基礎) | 主査:中野義彦 | 分科会 11 回開催 |
| •WG2+3+SG(視覚表示の条件、制御装置、作業場及び環境の条件) | 主査:久武雄三 | 分科会 35 回開催 |
| •WG5+WG9(人間—機械の対話、触知および触覚のインタラクション) | 主査:山本 栄 | 分科会 5 回開催 |
| •WG6(インタラクティブシステムの人間中心設計) | 主査:黒須正明 | 分科会 1 回開催 |
| •WG8(制御室の人間工学的設計) | 主査:藤田祐志 | |
| 4)SC5(物理的環境の人間工学) | 主査:梶原 裕 | |

・WG1+4(温熱環境、総合環境評価)	主査: 栢原 裕	分科会 4 回開催
・WG5(特別な配慮を必要とする人々のための環境)	主査: 倉片憲治	
5) TC159/WG2(特別な配慮を必要とする人々のための人間工学)	主査: 佐川 賢	分科会 1 回開催
6) JIS 分科会	主査: 米村俊一	分科会 11 回開催

3-5. 表彰委員会

{委員長：阿久津 正大}

(1) 委員会開催状況

全体委員会を4月30日、6月15日、9月8日、11月4日、1月23日、3月7日に開催したほか、随時電子メールでも討議を進め、下記について活動を行った。

(2) 活動内容

1) 表彰制度の改定、新設について

- ・「大島正光賞選考方法及び授与基準」、「研究奨励賞選考方法及び授与基準」を見直し、改定案を理事会に上申した(両賞の選考方法及び授与基準は第139回理事会(2008年11月19日)で承認、同日付で改定)。
- ・「功労賞選考方法及び授与基準」を検討・試案し、理事会に上申した(功労賞選考方法及び授与基準は第141回理事会(2009年3月18日)で承認され4月1日施行)。

2) 大島正光賞について

- ・平成21年大島正光賞について、受賞候補論文の選考を編集委員会に依頼し選考結果を理事会に上申した。

3) 日本人間工学会研究奨励賞について

- ・平成20年度総会において、平成20年研究奨励賞の授与式を行った。受賞論文は、「液晶ディスプレイを用いた高齢者の色覚特性に関する研究(著者:藤田徹也氏、中島芳雄氏、高松 衛氏)」、「起立と着座が容易な自動車シートの開発(著者:大谷光司、山崎信寿)」であった。
- ・平成21年研究奨励賞について、受賞候補論文の選考を編集委員会に依頼し、選考結果を理事会に上申した。

4) 日本人間工学会優秀研究発表奨励賞について

- ・第49回大会において平成20年度優秀研究発表奨励賞の受賞者を選考し、理事会に上申した。また、同賞受賞者5名に賞状を授与するとともに、同賞の運営についての標準化を図った。
- ・第50回大会での研究発表者が受賞対象となる平成21年度優秀研究発表奨励賞の広報および選考作業を進めた。

5) 日本人間工学会功労賞について

- ・第50回大会・総会時に功労賞授与式を行うための準備を進めた。

6) 国際表彰に関して、国際協力委員会と連絡を密にして IEA からの推薦依頼について対応した。また本学会 HP で各種アワードの紹介・推薦募集等の広報活動を進めた。

7) 表彰制度のあり方の検討等に資するために、他学会等の表彰制度に関わる情報を収集した。

8) 人間工学製品や人間工学実践活動に対する表彰制度の創設について検討を進めた(この事業は広報委員会との連携事業である)。

9) 表彰委員会 HP の開設準備を進めた。

3-6. 日本学術会議担当

{担当：齊藤 進、青木 和夫}

(1) 日本学術会議の連携の拡充

- 1) 「日本人間工学会公開講座」(2009年3月19日開催)について学術会議の後援を取得した。
- 2) 学術会議から発信される情報は適宜日本人間工学会のHPに掲載し、関連強化に努めた。

(2) 日本学術会議主催の安全工学シンポジウム2008への協力

安全工学シンポジウム2008（幹事学会：土木学会、2008年7月10日、11日）を共催し、実行委員として運営に参加した。また、オーガナイズドセッション1件を本学会から提案して実施した。

(3) 日本学術会議主催の安全工学シンポジウム2009の準備

安全工学シンポジウム2009（幹事学会：日本人間工学会、2009年7月9日、10日）の幹事学会として実行委員会、企画運営委員会を組織し、実施の準備を行った。

第1回実行委員会：2008年10月24日（木） 日本大学理工学部駿河台5号館524会議室

第2回実行委員会：2009年1月30日（木） 日本大学理工学部駿河台5号館524会議室

[臨時委員会・担当]

3-7. 企業の人材育成プログラム開発委員会

{委員長：酒井 一博}

本委員会発足時に掲げた任期内事業に基づいて、活発に活動を行った。10回の委員会および4回の報告書編集会議を開催した。主な活動は以下の通り。

- (1) 企業における喫緊の人間工学ニーズに日本人間工学会としての的確に応え、人間工学の更なる実践的活用と社会への普及を図るために、企業人向け人間工学教育シラバスの作成を行った。シラバス作成に当たっては、まず、有識者に対するヒアリング（18名の学会員）および国内外の文献調査を行い、7つのコア・コンピテンシを定めた。つぎに、コア・コンピテンシに基づいて、科目数、科目内容を検討し、最終的に、その中で35科目を設定するに至り、それぞれの科目のシラバスを作成した。
- (2) 上記シラバスを実践するために、いくつかの代表的な業種や、経営者を対象とした履修モデルを作成した。
- (3) 委員会の活動について、委託元への報告を行うとともに、報告書を作成し、併せて内容をホームページ上で公開した。

3-8. 人間工学技術戦略委員会

{委員長：藤田 裕志、委員長代行：富田 豊}

(1) 引き続き技術戦略ロードマップのローリングを行うとともに、他学会等による関連技術戦略ロードマップ作成に協力する計画の下、以下の活動を行った。

- 1) JES ロードマップを改定した（改定1版2008年6月）。
 - 2) 横断型基幹科学技術研究団体連合ロードマップ委員会のワーキンググループ活動に協力した（山本栄委員）。とくに「人間・生活支援技術分野に関するWG」に参加協力した（合宿1回および会議4回）。成果は報告書としてまとめられた。
- (2) IEA 等の関連する外部機関に対して活動成果をアピールする計画の下、以下の活動を行った。
- ・日本安全教育学会特別講演（2008年9月 子どもの環境にエルゴノミクスの視点を）
 - ・文科省 安全・安心科学技術企画室との情報交換（2008年9月）
 - ・経産省 人間生活システム政策室との情報交換（2008年10月）
 - ・経済産業省アカデミック・ロードマップへの協力（2008年11月）
 - ・日本ロボット学会 ロボット分野アカデミック・ロードマップへの協力（日本ロボット学会誌、26巻、7号、2008）
 - ・台湾人間工学会 特別講演（2009年3月 Overview of JES and its Strategic Plan）
 - ・府省共通研究開発管理システム（E-Rad）研究機関コード取得（6000021017）

(2) 策定した技術戦略ロードマップの活用について、より具体的に検討を進める計画の下、平成21年度に子供のための人間工学に焦点を置いた活動を行うための準備を行った。その他、文部科学省が推進している安全・安心関連事業の調査等を実施した。

3-9. 人間工学研究ガイドライン検討委員会

{委員長:横井 孝志}

(1)活動目的

被験者を用いた実験における倫理的配慮がこれまで以上に重視され始めた。日本人間工学会においても、倫理性に配慮した適正な人間工学実験実施のための指針を作成する必要があるとの認識に至った。そこで、日本人間工学会の中に本委員会を設置し、学会としての人間工学実験に関する倫理面からの指針案を策定する。

(2)委員会委員

青木和夫(日本大学)、石橋基範(マツダ(株))、近藤良享(筑波大学)、鈴木浩明(鉄道総研)、鈴木慎也(産総研)、瀬尾明彦(首都大学東京)、富田 豊(慶応大学)、畠中順子(人間生活工学研究センター)、横井孝志(産総研)

(3)本指針の目的、用途、使用者等

- 1)目的:製品の開発や評価、学術研究等のために実施する人間工学実験において、実験対象者の尊厳および人権の尊重、個人情報保護、その他の倫理的観点から遵守すべき事項等を、具体的事例も含めて定める。被験者の保護、学術研究、製品評価、機器開発等における倫理的正当性の確保等がねらい。
- 2)用途:実験計画立案、実験実施において倫理面から配慮すべき必要事項等を確認するための指針。人間工学実験における倫理的配慮について学ぶための参考資料。倫理審査の際の参考資料。
- 3)使用者:人間工学に係る企業、評価団体、研究機関、大学等の組織あるいはそこに所属する人間工学実験実施者、実施責任者等

(4)活動概要

日本人間工学会としての人間工学実験倫理指針を効率よく策定するため、委員会を設置した。また、指針1次原案を作成した。この1次原案については現在委員会で修正加筆作業を進めているところ。

3-10. 支部・部会・大会担当

{担当:福田 康明、斎藤 真}

支部・部会・大会委員会では、昨年度に引き続き、これまで継続してきた支部・部会活動に関わる課題や問題点を抽出した。抽出された内容について、2008年1月理事会に提出し、理事会で議論された。この議論の結果を踏まえて、2008年4月に各支部長、部会長に対しアンケート調査を行い、その結果を2008年6月に支部長・部会長会議に提出し、意見交換を行った。さらに2008年11月理事会にて中間報告を行った後、各支部長、各部会長に対して2度目のアンケート調査を行い、最終答申を作成した。答申案の作成に際しては、岡田明関西支部長、三林洋介総務副担当理事、八田一利理事に協力を得た。最終答申の基本的な事項については、つぎのとおりである。

支部活動では、(1)会員増員、(2)支部の区分けの適正さ、(3)研究活動報告の公表、(4)学会誌への活動報告掲載、(5)支部長の理事会参加について、(6)その他の各視点からの対応策を提言した。

部会活動では、(1)部会費の一律支給を見直しについて、(2)活動成果の公表について、(3)部会活動の助言、指導、規則について、(4)学会誌への活動報告掲載、(5)全体的な意見の各視点からの対応策を提言した。

大会運営は(1)大会運営理事および委員会の設置、(2)参加手続きのWEB電子化への支援、(3)プログラム編集の支援、(4)レジメの編集、印刷の支援、(5)機器展示、広告掲載の支援、(6)理事会、評議員会、総会開催の支援、(7)原著論文査読を行う発表セッションの新設、(8)原著投稿料金の値下げ、(9)大会の開催日程についての対応策を提言した。

3-11. 法人化担当

{担当:大久保 堯夫}

新法人制度の施行にとまない、これに準拠して一般社団法人化の為の諸要件の精査、確認と定款等諸規定の再点検と整備を行った。

4. 支部活動

4-1. 北海道支部

{支部長:横山 真太郎}

(1) 会議

1) 支部役員会 平成20年7月18日(金) 北海道大学工学部

- ・平成19年度支部事業報告
- ・平成19年度決算報告並びに監査報告
- ・平成20年度予算案
- ・平成20年度支部事業計画案
- ・平成21年度支部大会および総会について
- ・平成22年度日本人間工学会第51回大会開催について

(2) 平成20年度支部大会および総会

1) 支部大会

日 時: 平成20年11月8日 (土)

会 場: 北海道大学大学院保健科学研究院 多目的室 (2階)

大会長: 井上馨 (北海道大学大学院保健科学研究院教授)

・一般演題

「高齢者による家電機器操作用語の理解度評価 (第2報)」酒井正幸 (札幌市立大学) ほか

「簡易局所耐寒性測定システムの応用に関する研究」佐藤麻希 (北海道大学) ほか

「調理活動中の代謝当量 (METs) についての検討—健康女性高齢者と若年者の比較から—」岸上博俊 (北海道大学) ほか

「高齢者の生体機能に関するデータベース化とその解析」宮崎俊行 (北海道大学) ほか

「介護老人保健施設で長時間使用されてきた共有車いすの形状分析」和田彩芳 (輪厚三愛病院) ほか

・特別講演

「人間工学の考え方を社会の常識に！」齊藤 進 (日本人間工学会会長)

2) 支部総会議題

- ・平成19年度支部事業報告
- ・平成19年度決算報告並びに監査報告
- ・平成20年度予算案
- ・平成20年度支部事業計画
- ・平成21年度支部大会および総会について

4-2. 東北支部

{支部長:北村 正晴}

(1) 支部主催講演会

1) 開催日時: 平成20年7月1日(火)14:30~18:00

2) 場 所 : 八戸プラザホテル1階 ブリリアント

3) 講演1 : 講師 八戸工業大学異分野融合科学研究所長 阿部勝憲氏
演題 地域における原子力と人材育成

4) 講演2 : 講師 八戸大学人間健康学部 深澤伸幸氏
演題 ヒューマンエラーと職場安全風土の醸成対策
(参加者15名)

(2) 支部役員会

- 1)開催日時：平成21年1月6日(火)12:00～14:00
- 2)場 所：東北大学未来科学技術共同研究センター 小会議室
- 3)議 題：支部研究会開催準備の打ち合わせを行った。また支部活性化策、支部会員の関心、他分野との連携可能性などに関して、意見交換を行った。これ以外の役員会相当議事は、メール討論で進めている。

(参加者4名)

(3)支部研究会(2回開催)

研究会-1：交通安全と人間工学

- 1)開催日時：平成21年1月31日(土)13:30～17:00
- 2)場 所：東北大学工学研究科総合研究棟 講義室3
- 3)講演1：講師 九州大学大学院人間環境学研究院 山口裕幸氏
演題 鉄道運転士の不安全行動を誘発する心理学的要因
- 4)講演2：講師 神奈川大学工学部経営工学科 堀野定雄氏
演題 自動車事故の予防安全研究

(参加者14名)

研究会-2：異文化コミュニケーションと人間工学

(東北大学未来科学技術共同研究センターと共同開催)

- 1)開催日時：平成21年2月24日(火)13:00～17:30
- 2)場 所：東北大学工学研究科総合研究棟 講義室1
- 3)講演1：講師 シービーエスアイ(株) 中島清治氏
演題 ビジネスと異文化コミュニケーション
- 4)講演2：講師 慶應大学講師 坂本ロビン氏
演題 教育と異文化コミュニケーション

(参加者27名)

【☆なお、これらの研究会講演内容は文書化しており、支部HPで閲覧可能】

4-3. 関東支部

{支部長:堀江 良典}

(1) 第38回関東支部大会

- ・開催日:平成20年11月29日(土)～30日(日)
- ・会 場:千葉工業大学津田沼キャンパス
- ・大会長:八田一利先生
- ・特別講演:1件 企画セッション:3件19題 一般演題:56題

(2)支部委員会

開催日:平成20年11月29日 会場:千葉工業大学津田沼キャンパス

(3)支部総会

開催日:平成20年11月29日 会場:千葉工業大学津田沼キャンパス

(4)卒業研究発表会

開催日:平成20年11月29日 会場:千葉工業大学津田沼キャンパス 演題数:33題

(5)見学会

開催日:平成21年3月11日 会場:ニプロ株式会社 参加者:20名

(6)ニューズレターの発行:見学会案内(2月)

4-4. 東海支部

{支部長:横森 求}

(1) 平成20年度日本人間工学会東海支部総会開催

- ・開催日時：平成21年3月21日（土）15:45～16:15
- ・場所：名城大学タワー75 10階 1002会議室
- ・懇親会：17:45～19:45 名城大学校友会館「レストラン・ベル」

(2) 講演会の開催

- ・開催日時：平成21年3月21日（土）16:30～17:30
- ・場所：名城大学タワー75 10階 1002会議室
- ・講演：中京大学教授 岸田孝弥 氏
- ・演題：自転車事故と人間工学

(3) 平成20年度日本人間工学会東海支部研究大会報告

- ・開催日時：平成20年10月18日（土）10:00～20:00
- ・開催場所：アイシン精機株式会社
- ・大会長：藤森文雄 アイシン精機株式会社取締役副社長
- ・実行委員長：上西園武良 アイシン精機株式会社主席技師
- ・発表演題数：特別講演1件、一般演題：36件
- ・参加者：109名
- ・懇親会参加者：42名

(4) 日本人間工学会東海支部 2008年度研究大会収支報告

(5) 役員会開催(4回開催)

- 1) 第1回役員会 平成20年7月10日(月) 名城大学
- 2) 第2回役員会 平成20年9月6日(土) 名古屋ガーデンパレス
- 3) 第3回役員会 平成20年12月19日(土) 名城大学名駅サテライト
- 4) 第4回役員会 平成21年3月21日(土) 名城大学

(6) 2009-2011年度支部役員および支部長選挙結果について

(2009年4月～2011年3月)

支部長：横森 求、副支部長：横山 清子、

役員：井口 弘和、池浦 良淳、榎原 毅、太田 壽江、大西 範和、片瀬 真由美、加藤 隆康、上西園 武良、
齋藤 真、澤田 慎治、富田 明美、永田 雅典、福田 康明、松岡 敏生、向井 希宏

監査：中嶋 芳雄、藤田 晃弘

4-5. 関西支部

{支部長:岡田 明}

(1) 企画・行事等

1) 見学会&講演会 金沢工業大学感動デザイン工学研究所

開催日：平成20年10月25日（土）

① 研究所見学（神宮英夫所長）

② 講演（講師：立命館大学 萩原啓先生）

参加者15名+金沢工業大学教員・学生約10名

2) 支部大会

開催日：平成20年12月6日（土）

会 場：京都工芸繊維大学 松ヶ崎キャンパス

大会長：森本一成先生（京都工芸繊維大学教授）

特別講演：「京都ブランドによる人材育成と地域創成の極意」

(久保雅義 京都工芸繊維大学教授)

招待講演：「人類学・人類動態学における観察について」

(香原志勢 立教大学名誉教授)

企画セッション「匠の技」「観察工学」および一般演題 計56件

懇親会

参加者183名

3) 春季講演会

開催日：平成21年3月28日(土)

会場：(学) 常翔学園 大阪センター

「ものづくりにまつわる人間工学的デザイン手法と実践事例」

司会：篠崎 彰大 ((株) ワコール)

1) 趣旨説明 岡田 明 (大阪市立大学)

2) 患者にやさしい医用機器を目指して ―製品開発の現場から―

田中修二 ((株) 島津製作所)

3) ヒトの特性に適合した生活機器の開発 ―人間工学的手法と事例―

上西園武良 (アイシン精機 (株))

4) (社) 人間生活工学研究センターの企業サポートについて

畠中順子 ((社) 人間生活工学研究センター)

5) 総合討論「どうすれば人間工学的デザインは成功するか」

指定討論者：川野常夫 (摂南大学)

参加者 55 名

4) 協賛

①ヒューマンインタフェースシンポジウム ノンバーバルインタフェース専門研究会,
ワークショップ「記憶障害や認知症の方を支援するノンバーバルコミュニケーション,
及びその他」, 2008. 9. 1, 大阪大学

②日本色彩学会関西支部 セミナー&シンポジウム「色彩心理」, 2009. 3/27-28, 大阪市立大学

(2) 会議・総会等

1) 第1回企画幹事会

開催日：平成20年7月16日(水)

会場：大阪市立大学 文化交流センター

2) 第1回評議員会役員会合同会議

開催日：平成20年12月6日(土)

会場：京都工芸繊維大学 松ヶ崎キャンパス

3) 第2回企画幹事会

開催日：平成21年1月7日(水)

会場：大阪市立大学 文化交流センター

4) 2009～2010年度支部長・副支部長・評議員選挙

投票期間：平成21年1月8日(木)～2月6日(金)

5) 選挙管理委員会

開催日：平成21年2月10日(火)

会場：大阪市立大学 大学院生活科学研究科

6) 第2回評議員会役員会合同会議

開催日：平成21年3月28日(土)

会場：(学) 常翔学園 大阪センター

7) 支部総会

開催日：平成21年 3月28日（土）

会 場：(学) 常翔学園 大阪センター

8) 優秀発表賞授賞式（支部総会時）（当年度支部大会発表の学生・若手研究者が対象）

安達悠子（大阪大学大学院）

発表題目：看護業務における違反の心理的生起要因に関する調査(3)― 属性に関する検討 ―

上田真由子（J R西日本）

発表題目：鉄道無線に対する自己関連性 ―鉄道運転士と大学生の比較―

渕 真輝（神戸大学大学院）

発表題目：許容する船間距離の経験による差異について

9) その他、評議員会・企画委員会のメール会議を実施

4-6. 中国・四国支部

{支部長:大塚 明}

(1) 理事会開催 (2回)

第1回：2008年11月22日，場所：県立広島大学保健福祉学部

第2回：2009年3月13日，場所：県立広島大学保健福祉学部

(2) 第41回日本人間工学会中国・四国支部大会を開催

開催日：2008年11月22日，場所：県立広島大学保健福祉学部

大会長：大塚 彰（県立広島大学）

大会参加人数：113名

予稿集広告掲載企業数：8社

予稿集印刷数：400部（残部数：60）

(3) 支部講演会開催 (1回)

開催日：2008年11月22日，場所：県立広島大学保健福祉学部

演題：「人工筋肉―医工連携における開発と臨床応用―」

講師：千田益生 先生（岡山大学病院総合リハビリテーション部 部長）

(4) 2007年度支部表彰（優秀論文賞）の実施（昨年度未実施分）

第40回日本人間工学会中国・四国支部大会の講演論文の中から採択された下記の論文に対し，著者全員に対して表彰状，代表者1名に対して副賞1万円を贈呈。

1) 講演番号205：「鮮魚の熟練的品質評価のモデル化」

演者：橋立知典，中村 誠，平 雄一郎，森元映治

2) 講演番号313：「体内埋込型医療機器用非接触エネルギー伝送システムの設計手法の検討」

演者：森政 瑛，柴建次，辻敏夫

(5) 2008年度支部表彰（優秀論文賞）の実施

第41回日本人間工学会中国・四国支部大会の講演論文の中から採択された下記の論文に対し，著者全員に対して表彰状，代表者1名に対して副賞1万円を贈呈。

1) 講演番号102：「降段動作方法の違いが下肢関節間力に与える影響について」

演者：長谷川正哉，島谷康司，金井秀作，金塚雄貴子，小野武也，大塚彰，沖貞明，河野明，嶋田智明

2) 講演番号202：「自動車乗降動作における人間の運動メカニズムの解析」

演者：堀上正義，武田雄策，岡本宜久，宮崎透，西川一男

4-7. 九州支部

{支部長:長谷川 徹也}

(1) 第29回支部評議員会

1) 月 日：平成20年12月13日

- 2)会 場：九州大学大橋キャンパス
- 3)議 題・平成20年度活動報告と決算
 - ・平成21年度活動計画と予算案
 - ・平成21年度第30回大会について
 - ・その他

(2)第29回支部総会

- 1)月 日：平成20年12月13日
- 2)会 場：九州大学大橋キャンパス
- 3)議 題・平成20年度活動報告と決算
 - ・平成21年度活動計画と予算案
 - ・平成21年度第30回大会について
 - ・その他

(3)第29回九州支部大会

- 1)月 日：平成20年12月13日
- 2)会 場：九州大学大橋キャンパス
- 3)大会長：柄原 裕（九州大学）
- 4)研究発表：3セッション 12演題
 - 特別企画：中・高校生・一般対象向け公開授業として実施（参加費無料）。
 - 公開プログラム・特別授業 司会 柄原 裕（大会長・九州大学）
 - 「人間工学へのお誘い」－世界・日本をリードする九州の人間工学－
 - 長谷川 徹也（近畿大学）「仕事を楽にする人間工学」
 - 綿貫 茂喜（九州大学） 「ヒトの特性を考えたモノづくり」
 - 村木 里志（九州大学） 「人に優しいモノづくり」
 - 九州大学の施設見学
- 5)「九州支部第29回大会講演集(九州人間工学 第29号)」の作成
- (4)「九州人間工学 第29号」の発送

5. 研究部会活動

5-1. 口と健康部会

{部会長:山本 宏治}

(1)活動目的

医療安全と人間工学ならびに歯学教育再生に対する人間工学的関与

(2)活動内容

近年の歯学卒前教育では、従来の医学的知識重点の教育にかわって、実際の治療技術や医療面接等の対話技術などの臨床能力養成の重要性が認識されるようになってきた。臨床実習直前に行われる共用試験における「客観的臨床能力試験」や、歯科医師国家試験への実技試験の実施などが議論されている中、臨床技能の効果的な教育法および評価法はいまだ確立されているとはいえない。本部会では、人間工学的立場から、歯科医療技術教育のための指針、効果の高い教授法、妥当性の高い評価法について提言していきたい。

一方、人間工学の追求はすなわち医療安全の追求に繋がるとの命題のもと、日々複雑化する医療システム・医療機器・医療環境に対処するには人間工学的見地からの開発が必須であり、日本歯科人間工学会から各界に提言していく方針である。従って、今年度の研究発表大会テーマを「医療安全と人間工学」とし、医療安全に徹した医療システム・医療機器・医療環境の現状と今後の改良点を議論する目的で研究発表大会を行った。また、同様に、人間工学的立場から、歯科医療技術教育のための指針、効果の高い教授法、妥当性の高い評価法につ

いて議論した。下記はその内容である。

1) 第24回研究発表大会

開催日：平成20年8月30日（土曜日）31日（日曜日）

場 所：九州歯科大学 本館4F 講義室2

大会長：九州歯科大学 口腔治療学講座 齶蝕歯髓疾患制御分野 寺下正道
～シンポジウム～

「医療安全を人間工学がサポートできるのか」

1. 人の問題：人は必ずミスをする

諸富 孝彦（九州歯科大学・齶蝕歯髓疾患制御分野）

2. 道具・環境の問題：歯科用ユニットの安全性と人間工学

藤原 久男（株式会社珉製作所）

3. システムの問題：医療の安全確保のシステムは人の域を超えられるか

亀岡 秀昭（熊本市 開業）

一般講演

1. 歯冠修復における偶発事故 -とくに誤飲・誤嚥について-

谷本 啓彰, 岩田 有弘, 村田 文子, 鈴木 康一郎, 西田 尚敬, 堀内, 山本 一世
(大阪歯科大学 歯科保存学講座、大阪歯科大学 付属病院)

2. 九州歯科大学におけるヒヤリハット報告の分析

椎葉 俊司, 農蘇 千絵, 笠井 宏記, 瀧口 玲子, 岩永 賢二郎, 森田 孝,
高田健一郎, 花田サツキ, 入江 美和, 亀田めぐみ, 林田 裕
(九州歯科大学附属病院リスクマネジメント部会)

3. 福岡歯科大学医科歯科総合病院における医療安全への取り組み

米田 雅裕, 内藤 徹, 山田 和彦, 久間 一宏, 岡田 一三
鈴木 奈央, 小島 寛, 廣藤 卓雄
(福岡歯科大学総合歯科学講座総合歯科学分野)
(福岡歯科大学成長発達学講座障害者歯科学分野)

4. 歯学教育歯科レーザー実習における安全対策について

山本 敦彦, 大橋 静江, 山本 宏治 (朝日大学 歯学部 口腔機能修復学講座)

5. 保存修復学基礎実習における5大学間の実習内容の比較その1

-基本的実習設備、人工歯、切削器具について-

斎藤 隆史, 泉川 昌宣, 半田 慶介, 安田 善之, 川上 智史, 高瀬 保晶, 杉山 利子, 平井 義人, 堀田 正人, 小竹 宏朋, 広瀬 俊, 望月 久子, 岡崎 愛, 田村 大輔, 作 誠太郎, 大橋 静江, 山本 宏治
(北海道医療大学 歯学部 口腔機能修復・再建学系 う蝕制御治療学分野)
(東京歯科大学 保存修復学講座)

(朝日大学 歯学部 口腔機能修復学講座 歯冠修復学)

6. 保存修復学基礎実習における5大学間の実習内容の比較 その2

-コンポジット修復とメタルインレー修復について-

廣藤 卓雄, 米田 雅裕, 阿南 壽, 泉 利雄, 山田 和彦, 久間 一宏, 内藤 徹, 岡田 一三, 鈴木 奈央, 谷本 啓彰, 吉川 一志, 藤田 昌弘, 恩地 美弥, 河見 忠雄, 山本 一世
(福岡歯科大学 総合歯科学講座 総合歯科学分野)
(福岡歯科大学 口腔治療学講座 歯科保存学分野)
(大阪歯科大学 歯科保存学講座)

7. う蝕検知液可染性う蝕付き人工歯の開発

泉川 昌宣, 半田 慶介, 安田 善之, 伊藤 修一, 斎藤 隆史
(北海道医療大学 歯学部口腔機能修復 再建学系う蝕制御治療学分野)

8. ハンドメイドタイプゴシックアーチトレーサーの作製と臨床応用
佐久間 重光, 伊藤 裕, 渡辺 正臣, 吉田 真琴, 足立 充, 安藤 清文
(愛知学院大学 歯学部 冠・橋義歯学講座)
9. 根管拡大形成操作解析装置の開発 (第2報)
KファイルおよびProTaperを用いた根管拡大形成操作の数値解析
庭野 和明, 子田 晃一, 興地 隆史
(新潟大学 大学院医歯学総合研究科 口腔健康科学講座う蝕学分野)
10. 口腔内写真撮影機材の開発 第二報
原田 崇, 杉浦 静夫, 内嶋 栄一, 渡辺 隼逸, 加賀美 利得
(愛知学院大学歯学部マルチメディアセンター)
(株式会社 杉浦研究所)
(株式会社 セルフメディカル)
11. 音声入力による歯科医師の業務効率改善
村田 憲隆(ドラゴンシステムズ株式会社)
12. 口腔内カメラの動画映像を見ながら行う歯科治療システム 藤江 英宏 (横浜市開業)
13. アロマセラピーが歯科診療環境に与える影響
吉田 真理, 柿木 保明, 北村 知昭, 尾崎 由衛
諸富 孝彦, 永吉 雅人, 藤本 陽子, 寺下 正道
(九州歯科大学 齲蝕歯髄疾患制御学分野)
(九州歯科大学 摂食機能リハビリテーション学分野)
(九州歯科大学 附属病院)
(九州歯科大学総合診療学分野)

2) 幹事会の開催

第63回 平成20年8月30日(土) 九州歯科大学附属病院 第二会議室

3) 第24回研究発表大会講演論文集発行

(3) 今後の展望

医療事故は必ず起きると想定し、人間工学とヒューマンファクター学よりアプローチする必要がある。基本的には、個人の安全に対する意識の向上が求められるが、エラー率の減少とエラーに連鎖した仕組み作り、ならびに起きた事故に備えることが必要である。具体的には、生体側の動作時計測や動作の分析、作業の分析や器材の配置あるいは情報伝達と処理方法を今後の研究課題として取り組む方針である。

5-2. 情報社会人間工学研究部会

{部会長:平沢 尚毅}

(1) 平成20年度活動テーマ

情報通信技術による社会的および組織的変革に対する人間工学的アプローチ

(2) 活動内容(手段・方法)

1) ワークショップの開催

2009年2月22日(日)に小樽商科大学ビジネス創造センターとの共催で、「地域医療システムの課題」をテーマとしてワークショップを開催した。当日は、悪天候のために当初予定したプログラムを変更し下記のような内容となった。

基調講演

「地域医療が抱える包括的課題— 麻酔科医から見えること —」 並木昭義氏 (札幌医科大学医学部)

講演

「山梨県における遠隔医療支援システム」 郷健太郎氏 (山梨大学大学院)

「開業医が見る医療支援システムの人間中心設計的課題」川端 博志氏（医療社団未来 K&A クリニック）
ディスカッション

講演を受けて、参加者との意見交換が行われた。

2) 役員会の開催

研究部会の運営内容を決定するために、今年度は2回役員会を開催した。特に、今年度は部会長の交代に伴い、事務体制も交代したため、その引き継ぎが行われた。

・第1回役員会

開催日時 平成20年6月15日 15:00-17:00

開催場所 共立女子大学

議題

- ①平成20年度部会計画
- ②第1回支部長、部会長会議報告
- ③事務体制の整備
- ④その他

・第2回役員会

開催日時 平成20年11月29日 15:00-17:00、平成20年11月30日 12:00-14:00

開催場所 千葉工業大学

議題

- ①平成20年度ワークショップ計画
- ②平成21年度シンポジウム計画
- ③事務体制整備の確認
- ④その他

(3) 成果

部会長の交代に伴い、新たに研究テーマを模索した結果、『社会、組織、場の変容』を基調とすることが確認された。具体的な問題の切り口として次のような方向性を確認した。

- ・地域医療のあり方：
- ・ダイバーシティマネジメント
- ・人間中心アプローチによる政策立案

(4) 問題点

研究部会のテーマの重要性は、一部の方には理解していただくようになったが、広く学会関係者の方には理解がされているとは言えない。そのため、広報を著作物等を通じて具体的に展開することが必要と思われる。

(5) 展望

これまで、個別のモノやシステムを人間中心アプローチによって探求してきたが、地域、社会システム、環境のように、対象を拡大した場合に、従来の手法がどこまで活用できるのか、できないとすれば、代替の手法にはどのようなものが必要になるのか、という方向性を打ち出したいと考えている。

5-3. 聴覚コミュニケーション部会

{部会長:江袋 林蔵}

(1) テーマ 聴覚コミュニケーション研究情報の交流促進

成果概要 平成20年度は当部会最終年度に当たり、5年間の活動の総括と、その評価に基づく今後5年間の活動への検討の時期に当たる。この5年間で人間工学の分野における聴覚研究の活動領域探索が課題であったが、当学会内外における研究情報の交流活動により、徐々にその特性が見え始めており、今後の活動への足がかりを見出すことができた。以下にその状況を報告する。

(2) 研究情報の交流促進の手段

- 1) 研究会の開催・他学会との交流
- 2) 幹事会の開催
- 3) ニュースレターの発行
- 4) ホームページの更新

(3) 研究情報の交流促進活動

- 1) 研究会の開催
 - a) 聴覚コミュニケーション研究会の開催
 - b) 音響学会 聴覚研究会の共催
- 2) 幹事会の開催

部会運営上の案件につき幹事会ネット上で随時開催する。
- 3) ニュースレターの発行

幹事会議事結果／審議案件・研究会情報等を随時部会員ネットを通じて広報する。
- 4) ホームページの更新

主要な部会活動を、行事の都度ホームページ内容を更新広報する。

(4) 成 果

概 要：平成19年度の課題とした九州地区での活動の他、関西地区での活動を促進できた。

1) 研究会

- a) 聴覚コミュニケーション研究会開催

第3回聴覚コミュニケーション研究会開催
 日 時：2008年9月6日
 場 所：大阪工業大学
 テーマ：聴覚と音声の応用
 発表件数：9件
 発行資料：聴覚コミュニケーション研究会資料 Vol. 3 No. 1
 AEG2008-01 ～ AEG2008-09

- b) 音響学会 聴覚研究会の共催

第4回 音響学会聴覚研究会 共催研究会
 日 時：2007年12月13日
 場 所：九州大学 (唐津会場)
 テーマ：聴覚一般
 発表件数：16件 (英語セッション9件含)
 発行資料：聴覚研究会資料 Vol. 38 No. 8
 H-2008-132 ～ H-2008-147

2) 幹事会

上記活動・IEA 活動検討・次年度活動計画・新会員入部審査等随時開催

3) ニュースレター

幹事会審議結果等の部会内広報を随時行った。

4) ホームページ

研究会活動状況の広報改版を行った。

(5) 課題と対応

- 1) 昨年度、部会研究会が関東地区に偏ることが問題になったが、今年度は大阪で開催することができた。
- 2) 昨年度は人間工学分野における研究活動の独自性の探索が課題であったが、従来型の研究活動の中から、聴覚と人の営みと言う形で、部会員各自の専門分野の中から少しずつ兆しが見え始めている。これを部会員がこの認識を共有できるかがこれからの課題である。
- 3) IEA における AUDITORY ERGONOMICS TC との活動連携を図る必要がある。

(6)展 望

- 1)研究会活動の開催地域は、当初目的を達成し、関東・近畿・九州にまたがるようになったが、当面この地域的活動に定着に努力する必要がある。
- 2)引き続き、他学会・IEA ATEC との関りの中から JES 独自性の探索を継続する。

5-4. 医療安全研究部会

{部会長:土屋 文人}

(1)活動目的

昨今多発している医療事故の多くは、医薬品や医療用具と人間との間のインターフェースあるいは人間同士におけるコミュニケーションに問題があると考えられる。臨床で発生した事故あるいはヒヤリハット事例の報告が外部から参照できるようになった今、その問題解決のために人間工学的観点から医療安全を図る方策を検討することによって、医療安全に寄与することを目的とする。

(2)活動内容及び成果

本年度は横幹連合医薬品インターフェース調査研究会との共催で、平成 21 年 3 月 23 日に「製薬企業のための人間工学入門」講習会を開催した。以下に当日のプログラムを掲載する。

第 1 部 最近の学会発表から (14:05-15:50)

1. 鍋田 啓太：添付文書情報における用法・用量記述の解析
2. 岡田 和寛：医薬品添付文書情報からの有効成分名の抽出
3. 米重 宏美：医薬品・医療機器等の回収に関するクラス分類の提案
4. 古城 晃：アンプルを対象とした外観類似医薬品検索手法の提案
5. 大槻 宜孝：PTP シートの外観類似性評価方法の検討
6. 泉谷 聡：高齢者を対象とした薬剤の包装デザイン評価

第 2 部 製薬企業における人間工学的研究はどうあるべきか? 16:00-17:00

土屋 文人：東京医科歯科大歯学部附属病院薬剤部長

また、この 10 年間の医薬品分野における人間工学的研究の論文や大会要旨をまとめた 528) 冊子「医薬品の使用の安全に関する資料集」を作成した。

5-5. 衣服人間工学部会

{部会長:間壁 治子}

(1)活動目的

当部会は、平成 14 年度より「人間と衣服との関係の評価について」をテーマに活動を行ってきた。20 年度は、「衣生活の近い未来を考える」をテーマに、大会でのシンポジウム参加をはじめ、参加型での勉強会や見学会などを企画し活動することを目的とした。

(2)活動内容

平成 20 年度は、役員会を 2 回、例会 3 回、第 49 回大会にてシンポジウムを開催した。活動内容と演題は以下の通りである。

1)第 1 回役員会

開催日：平成 20 年 5 月 24 日

場 所：共立女子大学

2)第 1 回例会 (体験・講習会)

開催日：平成 20 年 5 月 24 日

場 所：共立女子大学

内 容：デジタルファッションショー 次世代デザインパターン LooksTailorX について

講演ならびにデモンストレーション、体験

参加者：部会長以下15名

3) 第49回大会シンポジウム

テーマ：衣生活の現在・過去・未来

発表者：磯崎明美氏（文化女子大学）

別府美雪（共立女子大学（非））

土肥麻佐子氏（産業技術総合研究所 デジタルヒューマン研究センター）

4) 第2回役員会

開催日：平成20年9月6日

場 所：共立女子大学

5) 第2回例会

開催日：平成20年9月6日

場 所：共立女子大学

演 題：衣服製作現場において配慮すべきヒューマンファクター

講演者：(株)吉田ヒロミデザインインターナショナル 代表 吉田ヒロミ氏

参加者：部会長以下80名

6) 第3回例会（見学会）

開催日：平成21年3月9日～10日

場 所：京都方面

内 容：1日目 ワコール人間科学研究所見学・製品紹介と京都服飾研究財団見学

2日目 京都絞り工芸館・千總見学

参加者：部会長以下25名

(3) 成果

- ・吉田ヒロミ氏の講演会は、学生が聴講するよい機会となった。被服学を学ぶ学生には貴重な内容であり、大いに刺激をうけた。部会員にとっても有意義な内容であった。
- ・見学会はじっくり視察できた。ワコール人間科学研究所では施設・設備ならびに製品開発の状況を知ることが出来、有意義であった。京都の伝統工芸の一つである絞りについてもじっくり見学ができた。今後の教育活動にも役立つ内容であった。参加者から好評をいただいた。
- ・シンポジウムでは、衣生活の過去から現在・そして近い未来について考える良い機会となった。

(4) 問題点

- ・以前より問題点として挙げているが、産学共同で、より衣服人間工学発展のため、さらに議論・検討を進める必要がある。
- ・若手人材の育成も急務と考える。

5-6. 人間融合ロボット分野アカデミックロードマップ研究部会

{部会長：富田 豊}

本研究部会は、2006年、2007年度に経済産業省より、ロボット分野に関するアカデミックロードマップ(ARM)の作成に関する研究を行う委託を受けたことによって発足した。

2007年度の活動に関して、ロボット学会より依頼され、Vol. 26, No. 07, pp4-9, ロボット分野アカデミック・ロードマップの統括、Vol. 26, No. 07, pp. 10-13, 人間系融合領域アカデミック・ロードマップを執筆した。

5-7. 触覚インタラクション研究部会

{部会長:山本 栄}

H20年度は、特に「研究活動の活性化」と「広報活動」に焦点をあて活動を行った。研究活動の活性化では、第2回ワークショップとして、ヒューマンインタフェース学会と共催による、研究会「触覚インタラクションとアクセシビリティ」の開催と、日本人間工学会第49回大会にてシンポジウム「触覚の世界～触覚研究の過去・現在・未来～」を開催した。特に人間工学会第49回大会にて開催したシンポジウムでは、5件の講演のほかにパネリスト4名によるパネルディスカッションを行った。会場からも多くの質問が寄せられ、活発なディスカッションを行うことができた。昨年度の事業計画では、ニュースレターの配信にも注力し、触覚研究者によるコラムを随時掲載し、触覚インタラクションの研究分野が広いことを周知する予定であったが、イベント情報の配信に留まった。H21年度ではニュースレターをより活用することで、会員に対するサービスの差別化を行うことで、新規会員の獲得を目指したい。平成21年3月31日現在の会員数は、30名である。

活動の詳細は以下の通りである。

(1) 研究活動の活性化

- ・日本人間工学会第49回大会 シンポジウムの開催

平成20年6月14日(土)～15日(日) 共立女子大学神田一ツ橋キャンパス本館

2日目にシンポジウム「触覚の世界～触覚研究の過去・現在・未来～」を開催

講演:5件 パネルディスカッション:4名

- ・第2回ワークショップの開催

研究会「触覚インタラクションとアクセシビリティ」を開催

平成20年8月7日(木)～8日(金) 公立はこだて未来大学

共催:ヒューマンインタフェース学会

特別講演:1件 発表件数:10件 参加者:22名

(2) 広報活動

- ・会員向けにNLを利用したイベントに関する情報の配信

平成20年6月11日送付

内容:日本人間工学会第49回大会シンポジウム開催案内

ワークショップ「触覚インタラクションとアクセシビリティ」の開催案内

5-8. 航空人間工学部会

{部会長:垣本 由紀子}

(1) テーマ

航空人間工学に関する知識の普及、情報の共有化を目的として、今年度は「航空交通における安全への取り組み」をテーマに活動を行った。

(2) 手段・方法ならびに成果

1) 例会

第90回例会を東京代々木のオリンピック記念青少年総合センターで開催し、例会の参加者数は合計107名が参加し活発な議論がもたれた。また、下期の活動として施設見学会を行った。概要は以下のとおりである。

○第90回例会

日時:平成20年7月10日(木) 10:45-16:45

場所:オリンピック記念青少年総合センター(東京・代々木)

テーマ:「航空交通における安全への取り組み」

講演:

1. 最近のトピック:「輸送機におけるHUD(Head Up Display)利用」

川崎重工業株式会社 航空宇宙カンパニー 技術本部 哨戒機・輸送機設計部 電装設計課(大型機設計チーム)

電装班 副班長)

國頭 聖氏

2. 「Runway Incursion に関する過去の事例研究」

(株)ANA グループ総合安全推進室 グループ安全推進部 担当部長 B747-400 機長

黒澤 和博 氏

3. 「滑走路誤進入防止対策」

国土交通省航空局 大臣官房参事官 (航空交通担当)

八澤 明男氏

4. 「管制官のヒューマンインターフェース管制業務タスク分析」

独立行政法人 電子航法研究所 ATM領域

福島 幸子氏

2) 施設見学会

施設：日本航空羽田整備工場

実施日：平成21年2月20日 (金)

15:00-17:00 (集合 14:30)

計41名の参加があった。

施設の制約等により50名の定員で案内。

(当初定員に達していたが、当日の欠席が多く41名となった。)

3) 学会誌への寄稿

人間工学 (2008 VOL. 44, No. 5) への寄稿「航空人間工学の現状と課題」を行った。

4) 委員会

本部会の運営に係る方針を決定するために、今年度は2回委員会を開催した。委員会の概要は以下のとおりである；

第47回委員会

日 時：平成20年11月26日 (水) 15:00-16:30

場 所：(財) 航空輸送技術研究センター (ATEC) 会議室

議 案：

(1) 委員・幹事の一部交代について

(2) 第90回例会報告および今年度下期の活動について

(3) 来年度の活動について

・次期幹事会社の確認

・次期部会長の選任

・次回例会 (第91回) (案) について

(4) その他

第48回委員会

日 時：平成21年3月23日 (月) 15:00-16:30

場 所：(財) 航空輸送技術研究センター (ATEC) 会議室

議案：

(1) 平成20年度会計報告 (案) について

(2) 平成20年度活動報告 (案) について

(3) 平成21年度活動計画 (案) について

(4) 次回例会 (第91回) テーマについて

その他、委員会および例会の活動準備等のため、平成20年度は幹事会を3回開催した。

5) ホームページの運営

一昨年度から運営したインターネットホームページにより、非会員も含め多くの関係者に対して航空安全へ

の理解・関心を深めることに貢献した。また、例会申し込みをホームページから行えるようにしたことで会員の利便性を高めた。ホームページには過去1年間に開催された例会の講演内容を掲載し、例会に出席できなかった会員に対する支援等を行った。例会等の申し込みについてはホームページから申し込みを行う割合が増え、今後もさらなる活用が見込まれることから内容の一層の充実を図る。

6) 例会資料の電子ファイル化の継続

第1回例会(1970年3月開催)～第90回例会(2008年7月開催)までの資料をCD-ROMに記録し、これを継続して財団法人日本航空協会の運営する航空図書館に寄贈した。

注：講演者の承諾が得られたものについて実施。(過去分について一部欠落あり)

7) 展望

例会と施設見学会を基本とした情報交換と知識の普及を図る活動を通じて、当部会の目標である航空人間工学の発展、航空安全の推進に寄与できたと考える。

5-9. アーゴデザイン部会

{部会長: 上田 義弘}

(1) 活動テーマ: 「ユビキタス時代のユニバーサルデザインー新たな手法を求めてー」

(2) 部会運営と主な活動内容

部会員 92 名(平成 21 年 3 月 31 日現在)。

平成 20 年度はシンポジウム 2 回、コンセプト事例発表会 1 回、見学会 1 回、合宿研究会 1 回、幹事会 7 回、総会 1 回、ユビキタス方法論 WG セッション 5 回開催(うち研究会準備委員会 2 回)。

1) 独自ドメインによるアーゴデザイン部会ホームページ運用、部会員メーリングネットワーク運用、幹事会メーリングネットワーク運用

2) シンポジウム(平成 20 年 6 月 15 日)第 49 回日本人間工学会大会 於: 共立女子大、出席: 45 名

テーマ: 「ビジョン提案型ユニバーサルデザイン手法」ー構造化シナリオ手法の提案ー

司 会: 山崎和彦(千葉工大)

講 演: 「ビジョン提案型ユニバーサルデザイン手法について」山崎和彦(千葉工大)、「構造化

シナリオ手法について」郷健太郎(山梨大)、「構造化シナリオの仮想事例」柳田宏治(倉敷芸術

科大)、「構造化シナリオのワークショップ」上田義弘(富士通デザイン)、「早川誠二(リコー)、「

ビジョン提案型ユニバーサルデザイン手法の今後活動に向けて」高橋克実(ホロンクリエイト)

3) コンセプト事例発表会(平成 20 年 8 月 22 日)於: 文京シビックホール、出席者: 35 名

「ウォークスルー・チェックリスト法の提案と有用性の確認」山口優(イード)、「ユーザビリティは本当に顧

客満足に貢献しているのか?」安藤昌也(産業技術大学院大)、「プロダクトデザインコース デザイン演習にお

けるペルソナ応用事例」ー初学者におけるペルソナ設定の違いによる影響ー細田彰一(昭和女子大)、「ものづくり

を希望する大学院生はインタラクティブ製品をどう使っているか?」廣瀬優平、齋藤祐基、安藤昌也(産業技術大

学院大)、「規格一元化で大型車脱輪事故防止を」堀野定雄(神奈川大)、「アームチェアクリエイターを創出する

ペルソナ手法の有用性」吉井誠(アイ・エス・ティ)、「ユビキタス・デザイン方法論WGの活動報告」、「ロー

ドマップWG設立趣旨説明」担当幹事(部会)「アーゴデザインの国際動向」堀野定雄(部会)、「ポスターセッ

ション」 「ペルソナ法を応用した『幸せプロダクト』のデザイン」古山智美、矢部望美、細田彰一(昭和女子大)

「『気分そのままに触る』という行為で操作する目覚ましインタフェースのデザイン提案」一番ヶ瀬洋明(京

都市立芸術大学大学院) 柳田宏治(倉敷芸術科大) 「創造技術専攻 家電量販店における販売員とのコミュニケー

ションを改善する提案ースムーズな会話を生み出す端末機器ー 齋藤祐基、古畑直紀、城腰友、石井絢子、藤沢

美香子、廣瀬優平、安藤昌也(産業技術大学院大) 「創造技術専攻 運命の本と出会える感激をあなたにとって光る

本との出会いを提案する本屋探索システム」村田篤志、下田麻美、藤堂高樹、齋藤貴之、中谷純、廣瀬優平、

安藤昌也(産業技術大学院大) 「受容性の高い商品作りのための超上流プロトタイプング事例」鞆幾也(U' eyes

Design)

4) シンポジウム開催(平成 20 年 11 月 30 日)第 38 回関東支部大会 於: 千葉工大、出席: 40 名

テーマ：「これからのユニバーサルデザイン」-ビジョン提案型デザインアプローチ-

発表者6名によるパネル討論

講演：「ビジョン提案型デザインアプローチの概要とユーザ要求抽出手法」山崎和彦(千葉工大)、郷 健太郎(山梨大)、「ビジョン提案型デザインアプローチの構造マトリックス型手法と事例」柳田宏治(倉敷芸術科大)、「携帯電話における事例」上田義弘(富士通)、「Webサイトにおける事例」吉井 誠(アイ・エス・ティ)、「ソリューションの事例」山田弘(Willcomコアモジュールフォーラム)山崎和彦(千葉工業大学)、「ビジョン提案型デザインアプローチの今後について」早川誠二(リコー)、高橋克実(ホロンクリエイ)

5) 見学会(平成20年10月31日)イーユーハウス (Eco&Ud HOUSE) 於:松下電器産業(株) 参加:25名

テーマ:「Panasonicのエコとユニバーサルデザイン」

6) 合宿研究会 In Shonan2008(平成21年3月13日~14日) 於:湘南国際村、出席:45名

テーマ:これからのユニバーサルデザイン- ビジョン提案型デザイン手法の実践ワークショップ-

特別講演:「人間中心のデザインからのビジョン」中川 聡(東大院特任教授、トライポッド)

「ビジョン提案型デザイン方法論WGの活動について」

「ビジョン提案型デザイン方法論SIGの活動開始について」

「ユーザの本質的な要求を見つけ出し、提案を具現化するための手法とは」

ワークショップ「気づきから本質の発見、本質的要求をまとめと具体化」

全体のまとめ・発表・今後の活動について

7) 平成20年度部会総会(平成21年3月14日) 於:湘南国際村

2008年度活動報告及び会計報告、2009年度活動計画及び予算に関して承認を得た。

8) その他の活動:

ユビキタスデザイン方法論WG活動を推進中(担当幹事:山崎、早川、柳田、郷、高橋(克)、上田)

ロードマップWGを設置、活動開始(担当幹事:新家、高橋(靖)、堀野、細田、上田)

(3) 成果: 当部会のテーマであるユビキタス時代のユニバーサルデザインのための手法として構造化シナリオ手法を提唱し、それを含む新たなデザインプロセス(方法論)としてビジョン提案型デザインアプローチの全体像が見えてきた。

(4) 課題: ビジョン提案型デザインを実践活用した具体的な事例の収集が必要であると考えている。

(5) 展望: 部会活動の中心テーマ「ユビキタスデザイン時代のユニバーサルデザイン方法論」として「ビジョン提案型デザイン」をさらに研究し、シンポジウム、書籍出版等を通して広く普及を図りたい。

5-10. 感性情報処理・官能評価部会

{部会長:市原 茂}

(1) 部会が取り組んだテーマ

今年度、当部会が取り組んだテーマは、感性の主体である人間の感覚・知覚・感情・認知のメカニズムに関する先端的な研究を紹介するとともに、感性研究や官能評価の手法についても幅広く検討すること。研究領域としては、知覚・認知・感性の問題や共感覚などに代表される感覚間相互作用の問題などを取り上げ、さらに官能評価の新しい統計手法の研究をしていくこと。そのために、関連する諸学会・研究会との連携も深め、研究会や講演会を積極的に開催していくこと。また、若手研究者の研究意欲を喚起し、具体的なアウトプットを生み出してゆく支援となる場としての機能を充実させることなどである。

(2) 手段・方法

その手段として今年度当部会が取り組んだ方法は、講演会の実施と見学会の実施、部会員のシステム大会への参加の促進である。講演会には、感覚間相互作用に関するものが2回と官能評価法に関するものが1回で、若手研究者の研究意欲促進の手段としてはシステム大会の発表を活用した。

(3) 成果

今年は講演会を3回行った。第1回目は、日本基礎心理学会のフォーラムに協賛する形で行われたが、当部会

の部会員も多数参加し、活発な議論の輪に加わった。感覚間相互作用研究は、現在、様々な領域の研究者が関心を示している領域であるが、その最前線はどんな視点で研究がなされているのかを垣間見ることができた。第2回目の讚井純一郎先生は評価グリッド法の第一人者であるが、予定の時間をオーバーしても厭わずに熱心にわかりやすくご講演いただき、質問に対しても丁寧にお答えいただいて、とても充実した会となった。第3回目は、金沢工業大学で神宮英夫先生から金沢工業大学感動デザイン工学研究所のご説明を受け、同時に、金沢工業大学感動デザイン工学研究所の最新の装置を見学することができた。さらに、システム大会に参加し、幹事会を4回開催した。

また、これまで、われわれの部会では部会名簿と部会規約が未整備であったが、今年度は、それらを整備し、部会規約については、部会のホームページに掲載した。

以下に、その詳細を述べる。

1) 第1回講演会(平成20年5月24日 首都大学東京)

「感覚間相互作用研究の現在とこれから」

- ・北川智利 (NTT コミュニケーション科学基礎研究所) 「聴触覚相互作用の諸相」
- ・藤崎和香 (産業技術総合研究所) 「聴触覚、視触覚、視聴覚間の同期知覚特性比較」
- ・杉田陽一 (産業技術総合研究所) 「異種感覚間相互作用の神経基盤」

2) 第2回講演会(平成20年10月18日 文化女子大学)

・讚井純一郎 (関東学院大学人間環境デザイン学科) 「評価グリッド法の理論と実際」

3) 第3回講演会&見学会(平成21年3月7日 金沢工業大学)

- ・神宮英夫 (金沢工業大学感動デザイン工学研究所所長) 「金沢工業大学感動デザイン工学研究所について」
- ・笠松慶子 (金沢工業大学) 「触情報によるユーザビリティ研究」

見学場所: 金沢工業大学感動デザイン工学研究所

4) 第17回システム大会(平成21年3月15日~17日 東海大学湘南校舎)

部会のメンバーは、「心理セッション」で発表し、合計6題の発表があった。

5) 幹事会

- ・第1回幹事会(平成20年5月24日首都大学東京)
- ・第2回幹事会(平成20年10月18日文化女子大学)
- ・第3回幹事会(平成21年3月7日金沢工業大学)
- ・第4回幹事会(平成21年3月17日東海大学)

(4) 問題点

部会名簿と部会規約が整備され、講演会も非常に充実したものとなったことは評価できる。その反面、部会員の発表の場が十分に確保されなかったきらいがある。第17回システム大会での発表は、発表者が一部の研究室に偏り、人間工学会の大会で部会員の発表が少なかったことも問題といえる。今後は、感性情報処理や官能評価の普及という部会の趣旨に沿って、さらに広範囲の人たちを取り込んで部会活動を進めたい。

5-11. 看護人間工学部会

{部会長:西田 直子}

(1) テーマ

看護人間工学の教育方略に関する研究ならびに人間工学に基づいた看護人間工学の独自性を明確に打ち出し研究成果を公表する。

(2) 手段・方法

1) 第16回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会開催

平成20年8月30日(土)に岩手看護短期大学のマルチメディアセンターにおいて、岩手看護短期大学の平野三千代教授が主催し、第16回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会を開催した。参加者は約50名で、12演題の研究発表が発表さ、質疑も活発にされた。特別講演では、岩手大学福祉システム工学科教授、大川井

宏明先生に福祉工学という立場で「排泄支援や24時間の健康見守り手法」についてのお話をしていただき、新鮮で視野が広がったと好評であった。また、エルゴシーティング株式会社野呂影勇人間工学研究所所長、野呂影勇先生に「研究の進め方」というテーマで講演していただいた。

2) 第17回システム連合大会への参加

平成21年3月13日(金)～3月15日(日)に東海大学の有賀正浩教授が主催し、第17回システム連合大会に看護人間工学会からも幹事会に参加し、大会に演題発表を行い約10名が参加した。

3) 日本人間工学会誌に看護人間工学に関する総説を投稿した。

4) 日本人間工学会第49回大会に実行委員および発表した。

(3) 成果

1) 第16回看護人間工学部公開研究会では、演題12題をの発表があり目標を達成できた。

2) 第50回日本人間工学会への発表を部会員に呼びかけ、参加人数を増やした。

3) 第17回システム連合大会では演題5題を発表した。

4) 看護人間工学研究誌第9巻を発行(平成21年3月)し、部会員に送付した。

内容は、大川井先生の特別講演、原著5編、短報1編、事例報告2編など、例年により多くの投稿があり充実したものとなった。

・特別講演「排泄支援から福祉工学を学び24h健康見守り手法に発展させる」

・皮膚バリア機能に及ぼす医療用粘着テープの影響

・「笑い」の心臓に対する負荷のかたち

・足裏マッサージが及ぼす保温効果についての検証ー皮膚温からの検討ー

・問診回答方式による在宅酸素療法実施者のためのテレナーシングシステムの開発

・ギャッチベッド背上げにおける座面分割方法と座面傾斜角度の検討

・映像と筋電図の同期計測による車いす移乗技術の習熟前後の筋負担評価

・高齢者における足浴・マッサージによる浮腫軽減の効果について

・移乗動作における患者・看護者の身体的・心理的負担の検討

(4) 問題

1) 看護人間工学会員が本会の会員でない人がいる。

2) 部会のホームページにおいて英語版を設けることを目標として取り組んできたが、十分に行うことが出来なかった。

(5) 展望

1) 看護人間工学会員の本会への入会促進についても引き続き取り組んでいくこととする。

2) 日本人間工学会学術集会への発表と本会誌の投稿を促進する。

3) 第17回看護人間工学部公開研究会を成功させる。

4) 第18回システム連合大会への参加を呼びかける。

5) 看護人間工学研究誌発行の充実をはかる。

6) 看護人間工学会のホームページにおいて英語版を設けるよう取り組む。

5-12. システム大会

{世話人: 富田 豊}

(1) 本会の目的

感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学会、聴覚コミュニケーション部会、旧ヒトをはかる部会、旧座研究部会、旧資格エルゴノミクス研究部会が中心となり、人間工学システム大会と称して17年前に発足した。

2008年度は有賀正浩(東海大学)が世話人となり、人間工学システム大会、日本知能情報ファジィ学会、21世紀科学と人間シンポジウムが合同で、東海大学湘南校舎(平塚市)で開催された。

(2) 活動の内容

平成20年度は下記日程で活動した。

- 1) 10月25日 第1回幹事会
- 2) 11月29日 第2回幹事会
- 3) 12月26日 第3回幹事会
- 4) 1月31日 第4回幹事会
- 5) 2月27日 第5回幹事会
- 6) 3月15日、16日、17日 人間工学システム大会（東海大学湘南校舎（平塚市））
- 7) 3月17日 第6回幹事会

6. 認定人間工学専門家部会

{部会長:青木 和夫}

(1) 部会員状況 (2009年3月31日現在)

人間工学専門家 160名 (資格取得者5名, 退会者3名)
準専門家 32名 (資格取得者11名)

(2) 資格認定試験実施状況

資格認定試験 (A方式試験) を1回実施、受験3名、合格2名であった。また、筆記試験免除条項の適用 (B方式試験) を年2回実施、受験4名、合格3名、審査中1名。準専門家に応募13名、書類審査に13名が合格、準専門家として登録された。

(3) 定期総会・講演会の開催

総会 日時: 2008年4月25日(金) 16:00~17:00
会場: 日本大学理工学部駿河台1号館2階122会議室
講演会 日時: 2008年4月25日(金) 14:00~15:50
会場: 日本大学理工学部駿河台1号館2階122会議室
演者: 八木佳子 (株式会社イトーキ) 演題: 「イトーキの椅子作りと人間工学」
北島洋樹 (労働科学研究所) 演題: 「人間工学実験に関するいくつかの話題」

(4) 幹事会の開催

第24回: 日時 2009年4月1日(水) 17:00~19:00
会場 日本大学理工学部駿河台5号館590会議室

(5) 再認定の促進

専門家資格の再認定の必要な部会員に対して積極的にはたらきかけを行い、再認定申請に必要な条件を満たすための条件を100名がクリアした。

(6) ガイドブックの改訂

問題形式の統一や問題の整理と加除を行い、ガイドブックの改訂原稿を作成した。

(7) 部会報作成

部会報を4回発行した。

(8) 人間工学グッドプラクティスデータベース作成への協力

(9) 学会へのコンサルティング依頼について部会員への情報提供

Ⅲ. 平成21年度事業計画

1. 事業計画

{総務担当: 齋藤 真}

- (1) 一般社団法人日本人間工学会を設立する。今後とも、人間工学に関わる諸課題を解決し、健康で安全な社会の発展に寄与する公益団体を目指す。
- (2) 第50回記念大会を赤松幹之大会長のもと平成21年6月10日～12日に産業技術総合研究所で開催する。
- (3) 評議員会および定期総会を平成21年6月10日に産業技術総合研究所において開催し、平成20年度事業報告・収支決算、平成21年度事業計画・収支予算の審議等を行う。
- (4) 第51回大会を横山真太郎大会長のもと平成22年6月19日～20日に北海道大学で開催することとし、準備を進める。
- (5) 理事会を年6回開催する。
- (6) 機関誌「人間工学」の第45巻2～6号および第46巻1号の計6冊を発行する。
- (7) 認定人間工学専門家資格認定試験(A方式試験)を年1回、筆記試験免除条項の適用(B方式試験)を年2回程度実施、また人間工学準専門家および人間工学アシスタント各試験を年4回実施する。その他、ガイドブックの改訂、再認定制度(生涯研修制度)推進等の活動を行うとともに資格制度の対外アピールを積極的に行う。
- (8) 長期的に事業を行う常設委員会・担当と、特定の目標を定め次年度総会までに得られた成果を学会として組織的に活用する臨時委員会・担当を置く。常設委員会・担当としては、広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159国内対策委員会、表彰委員会、日本学術会議担当(安全工学シンポジウム2009開催)、横断型基幹科学技術研究団体連合担当、人間工学専門家認定機構、また臨時委員会・担当として、ニーズ対応型人間工学展開委員会、企業の人間工学教育のあり方検討委員会、テレワークガイド委員会、人間工学技術戦略委員会(子どもの人間工学分科会の新設)、人間工学研究ガイドライン検討委員会、選挙管理委員会、文科省科研費担当、第50回記念大会担当を設置し、各事業を積極的に進める。
- (9) 支部活動および研究部会活動を推進するとともに、支部・部会・大会担当の答申に基づき支部および研究部会のあり方について再検討を行う。研究部会は、情報社会人間工学研究部会、聴覚コミュニケーション部会、医療安全研究部会、衣服人間工学部会、触覚インタラクション研究部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学部会の計9部会とシステム大会で活動を行う。
- (10) IEA(国際人間工学連合)と連携して様々な国際協力活動を推進する。IEA理事会(8月8～9日、北京)への出席、IEAアワード申請への協力、IEA内の各委員会への協力を行う。JES / ESK(大韓人間工学会)合同シンポジウム平成22年度韓国での開催に向けて協力準備を進める。
- (11) 平成21年大島正光賞および研究奨励賞の受賞論文、優秀研究発表奨励賞の受賞者を決定し、各受賞者に同賞を授与する。また、名誉会員候補者の選考、功労賞候補者の選考および授与、国際表彰への対応、表彰制度の整備を行う。
- (12) 産学官連携を含めた他学会等との共同事業を広く展開するとともに、人間工学の社会への普及および啓発を図るため、公開講座、セミナー、シンポジウムの開催および共催等の事業を行う。
- (13) 日本学術会議との連携強化、関連学術団体との連絡および協力を進め、人間工学の普及に努める。幹事学会として日本学術会議主催の安全工学シンポジウム2009を開催する。
- (14) 学会事務局の業務運営の合理化については、継続して一部会員管理業務の外部委託を推進する。対象業務は、webによる新会員申し込み手続き・会員管理業務・支部長による各支部会員管理であり、退会および会員データベースの変更についてのweb化にも取り組む。

2. 委員会・担当活動

[常設委員会・担当]

2-1. 広報委員会

{委員長: 吉武 良治}

- (1) 理事会、支部会、委員会、研究会などと連携・協力のもと、ホームページを中心に広報活動を推進することによって人間工学の普及に努める。
- (2) グッドプラクティス DB の取り組みを継続し、さらなる人間工学の実践事例公開を通して認知度向上へ努める。
- (3) 人間工学リーフレットの作成・配布、学生・企業の架け橋プロジェクトなど本委員会発足時に挙げた任期内事業計画に基づき広報活動を推進する。
- (4) 学会ホームページのリニューアルに本格的に着手し、リニューアルを推進する。

2-2. 編集委員会

{委員長:加藤 象二郎}

学会誌「人間工学」の年6号分の通常の編集・発行業務に加えて、以下の事項について検討を行う。

- (1) 投稿原稿の査読に関して、さらなる効率化と迅速化をはかる。
- (2) 毎巻5号を特集号とする編集活動及び既設の研究部会活動を総説として掲載する。
- (3) 学会員からの提案企画、企業、研究機関における人間工学的活動の掲載について検討する。
- (4) 編集委員会のホームページをさらに充実させ、学会員ならびに論文投稿者の利便をはかる。
- (5) 日本人間工学会の法人化に伴う編集委員会所掌業務の発生には迅速な対応をはかる。

平成21年度の編集委員会は、これまで通り奇数月開催を予定している。なお、必要に応じて偶数月には電子編集委員会を開催する。

2-3. 国際協力委員会

{委員長:堀江 良典}

- (1) IEA 2009 北京開催に際し、JES 窓口として会員参加への協力
- (2) IEA 理事会(8月8~9日)への参加 北京(中国)

国際協力委員が council member として3名、ならびに alternate member 1名が出席予定

- (3) 国際協力活動およびその他

- ・IEA アワード申請への協力
- ・IEA 内の各委員会への協力
- ・学会内各委員会などへ国際協力委員としての参加

2-4. ISO/TC159国内対策委員会

{委員長:横井 孝志}

- (1) 会議：全体会議4回、分科会延べ60回前後開催予定

- (2) 予定されている主な審議項目

SC1) (人間工学の一般原則)

- ・ISO 6385 : 2004 「人間工学—作業システム設計の原則」案の審議
- ・ISO 26385 「人間工学—人間工学の原則—作業システム設計の原則」案の審議
- ・ISO 11075:1991 「人間工学—精神的作業負荷に関する原則—用語及び定義」の見直し
- ・ISO 10075-2 :1996 「人間工学—精神的作業負荷に関する原則—設計の原則」の見直し
- ・ISO 10075-3:2004 の原案作成と審議

SC3) (人体寸法と生体力学)

- ・AWI 7250シリーズ「技術的設計のための基本人体測定項目」の審議
- ・TS20646-1のTR化(日本が中心となって原案を作成)
- ・TR12295 (11228シリーズ活用ガイドライン)、TR12296 (介護業務等従事者のためのマニュアルハンドリングの規格)の作成

SC4) (人間とシステムのインタラクション)

- ・ISO9241シリーズ規格「人とシステムのインタラクション関連規格」の審議

- ・ISO/TS20282-3「生活用品の操作性」の審議
- ・ISO/CD24503「生活用品における点字記号等の利用」の審議
- SC5) (物理的環境の人間工学、特別な配慮を必要とする人々のための物理環境)
 - ・CD24500「人間工学－アクセシブルデザイン－消費生活の報知音」の審議
 - ・CD24501「人間工学－アクセシブルデザイン－消費生活製品の報知音」の審議
 - ・CD24502「人間工学－アクセシブルデザイン－視覚表示物の年代別相対輝度の求め方」の審議
 - ・CD28802「物理環境の人間工学－環境アセスメント」
 - ・CD28803「物理環境の人間工学－特別な配慮を必要とする人々に対する国際規格の適用」
- TC159/WG2) (特別な配慮を必要とする人々のための人間工学)
 - ・ISO/TR22411「高齢者・障害者のニーズに配慮するために製品及びサービスの規格へ ISO/IEC ガイド 71 を適用するための人間工学データとガイドライン」第2版作成
- JIS)
 - ・ISO9241-171 (ソフトウェアアクセシビリティのためのガイドライン) の JIS 原案作成
 - ・ISO1503 : 2008 (方向通則) の JIS 化検討と原案作成提案
- (3) 国際会議予定
 - ・TC159 総会(8/17-18 : 北京), TC159/CAG・AGAD 会議(8/13-14 : 北京), TC159/SC3 総会(8/15-16 北京), 他各 WG の会議複数予定

2-5. 表彰委員会

{委員長:阿久津 正大}

(1) 委員会開催状況

6 回の全体委員会の開催のほか、随時電子メールでの討議を行い、下記の活動を進める。

(2) 活動内容

- 1) 表彰制度のあり方の検討等に資するために、他学会等の表彰制度に関わる情報を収集する。
- 2) 表彰制度のあり方、各賞の選考規程等、表彰制度の検討・整備を進める。
- 3) 第 50 回大会・総会時に平成 21 年度日本人間工学会功労賞の受賞者に対する授与式を行う。また平成 22 年度功労賞の受賞候補者の選考を行うとともに、表彰の準備を進める。
- 4) 平成 21 年「大島正光賞」「研究奨励賞」の受賞者に対する授与式を行う。また平成 22 年「大島正光賞」「研究奨励賞」の受賞候補者の選考を編集委員会に依頼し、選考結果を理事会に上申する。
- 5) 第 50 回大会における「日本人間工学会優秀研究発表奨励賞」の受賞者を選考し、受賞者に対する表彰を行う。また第 51 回大会における同賞受賞者の選考に向けて準備を進める。
- 6) 人間工学製品や人間工学実践活動に対する表彰制度の創設について広報委員会と連携して進める。
- 7) 国際表彰に関して、国際協力委員会と連絡を密にして IEA からの推薦依頼等について対応する。
- 8) 表彰委員会 HP を開設し、表彰に関する広報活動を積極的進める。

2-6. 日本学術会議担当

{担当:齊藤 進、青木 和夫}

(1) 日本学術会議との連携の拡充

日本学術会議から発信される情報は随時日本人間工学会の HP に掲載するとともに、日本学術会議主催の諸活動に積極的に参加する。

(2) 日本学術会議主催の安全工学シンポジウムの開催

安全工学シンポジウム 2009 (幹事学会: 日本人間工学会、2009 年 7 月 9 日、10 日) を開催する。

2-7. 横断型基幹科学技術研究団体連合担当 {担当:青木 和夫、酒井 一博、加藤象二郎、斉藤 進}

- (1)横断型基幹科学技術団体連合のカンファレンス等の活動に積極的に参加する。
- (2)会誌「横幹」の編集企画に協力する(編集委員長:青木和夫)。
- (3)会員学会42学会との連絡を密にし、連携を強化する。

2-8. 人間工学専門家認定機構 {機構長:青木 和夫}

- (1)資格認定試験を実施する。
資格認定試験(A方式試験)を年1回、筆記試験免除条項の適用(B方式試験)を年2回程度実施する。準専門家試験を年4回程度実施する。
A方式試験:2009年9月11日(金) 東京
- (2)定期総会、講演会、幹事会を開催する。
講演会 日時:2009年4月22日(水) 14:00~15:50
会場:中央大学駿河台記念館 610号室
講演:松波晴人(大阪ガス株式会社)
演題:「サービスサイエンス 行動観察技術のビジネスへの応用」
鯉部絵理子(ノキア・ジャパン株式会社)
演題:「携帯電話開発と人間工学」
総会 日時:2009年4月22日(水) 16:00~17:00
会場:中央大学駿河台記念館 610号室
幹事会(1回開催予定)
- (3)機構長の改選を行う。
- (4)ガイドブック改訂版を発行する。
改訂したガイドブックを電子化してホームページからダウンロードできるようにする。
- (5)再認定を促進する。
- (6)部会ホームページ、部会報、学会大会、広報等を活用して部会員の交流と本制度の対外アピールに努める。
- (7)人間工学グッドプラクティスデータベース作成に積極的に協力する。
- (8)IEA 専門家教育委員会の活動に協力する。

[臨時委員会・担当]

2-9. ニーズ対応型人間工学展開委員会 {委員長:榎原 毅}

学会法人化を契機とし、一層の社会的責任を果たすべく、Webサイト等を積極的に活用した以下の事業を展開する。社会ニーズ及び学術ニーズに沿った人間工学情報を社会へ提供することにより、学会として組織的に、安全で安心できる社会を実現することに貢献することが期待できる。

- (1)社会へ向けた迅速かつ効果的な情報発信の仕組みを構築する。
- (2)産学官民(GIAP)の共同・連携を促進するための方策を具体化する。
- (3)人間工学実践家及び若手人材育成に有用なコンテンツを提供する。
- (4)人間工学を活用したWebサイトにより、人間中心設計のグッドプラクティスを示す。

2-10. 企業の人間工学教育のあり方検討委員会

{委員長:酒井 一博}

平成20年度の「企業の人材育成プログラム開発委員会」の活動成果を発展的に継承し、企業における人間工学教育の深化と教育実践を年度内に試行することを目的に新委員会を立ち上げる。

- (1) 人間工学教育の実践方法の検討をすすめながら、企業人が学びやすく、かつ効果の上がるよう、前年度提案のあった35科目のシラバスの見直しを行う。
- (2) シラバスに即した教材開発の方針を検討する
- (3) パイロットスタディとして、企業人を対象とした人間工学教育を年度内に実施する。

2-11. テレワークガイド委員会

{委員長:吉武 良治}

総務省では2007年に「テレワーク人口倍増アクションプラン」を策定し、2010年までにテレワーカーを就業者人口の2割とする目標を掲げている。テレワークを推進する企業も増えているが、テレワークでは様々な観点から、人間工学的な配慮が重要であるのは明らかである。テレワークの健全な発展のために日本人間工学会としてやるべきことを検討し、ガイドラインや報告書などにて貢献することを検討する。3年間程度にて一定の成果を揚げることを目標とし、委員会の継続については毎年見直すことを予定している。平成21年度は以下の2点を推進する。

- (1) テレワーク関連のすでに公開されている情報を収集し、人間工学的な課題や検討分野を検討する。
- (2) テレワークではIT機器、モバイル機器の活用が重要となるため、1998年に本学会にて策定した「ノートパソコン利用の人間工学ガイドライン」の見直しを行う（2001年にはホームページ上にて公開）。

2-12. 人間工学技術戦略委員会

{委員長:藤田 祐志}

- (1) 策定した技術戦略ロードマップの活用についてさらに検討を進める。理事、関連研究部会長との連携の下、学会活動への展開に重点をおいて検討する（E-委員会）。
- (2) 技術戦略の具体的な展開として、子供のための人間工学に焦点を置いた活動を行う。具体的には、「子どもの人間工学分科会（小松原明哲主査）」を設け、子どもの健全な心身の発達支援、子どもの視点からのモノや街づくり、人間工学の初中等学校教育等、生活者としての子どもと人間工学との関係性を検討し、あるべき方策を探る。

2-13. 人間工学研究ガイドライン検討委員会

{委員長:横井 孝志}

- (1) 人間工学実験倫理指針原案を委員会内で議論し、ブラッシュアップして、日本人間工学会としてある程度許容できる内容の指針を、人間工学実験ガイドライン委員会案として策定する（5月下旬）。
- (2) 策定した指針案を、学会理事会の承認を得た後に、学会員等になんらかの方法で公開して会員からのコメントを集約する。（7月上旬）
- (3) 得られた会員からのコメントをもとに、再度内容を修正加筆し、委員会で内容を確認し、委員会修正案として策定する（8月下旬）。
- (4) 策定した委員改修成案について、学会理事会で内容の承認を得た後、人間工学会としての指針として確定する。（9月下旬）

2-14. 選挙管理委員会

{委員長：八田 一利}

一般社団法人日本人間工学会定款に規定する代議員及び役員選挙に関する業務を行うため、選挙管理委員会を設置する。

2-15. 文科省科研費担当

{担当：斉藤 進、青木 和夫}

「人間工学」は、文部科学省科学研究費補助金の系・分野・分科・細目表（平成19年1月改正）において、生物学及び医歯薬学分野のキーワードとして記載されている。本来、人間工学が果たすべき社会的・学術的役割の重要性を鑑み、平成22年度に検討を開始する予定の細目表見直しへ向け、学会が文科省に対し組織的に働きかけることとする。

- (1) 科研費の系・分野・分科・細目表見直しと人間工学採択へ向けた方策を検討する。
- (2) 平成22年3月を目途に、学会から要望書を文部科学省へ提出する。

3. 支部活動

3-1. 北海道支部

{支部長：横山 真太郎}

(1) 会議

- 1) 支部役員会 平成21年7月24日（金）（予定） 北海道大学工学部
 - ・平成20年度支部事業報告
 - ・平成20年度決算報告並びに監査報告
 - ・平成21年度予算案
 - ・平成21年度支部事業計画案
 - ・平成22年度日本人間工学会第51回大会（6月19日～20日）開催について
 - ・平成22年度支部大会および総会について

(2) 平成21年度支部大会および総会

大会長：細川敏幸（北海道大学高等教育機能開発センター教授）
日時：平成21年11月14日（土）
場所：北海道大学情報教育館

1) 支部大会

- ・特別講演：青木和夫（日本人間工学会副会長）（予定）
- ・シンポジウム
- ・一般講演

2) 支部総会議題

- ・平成20年度支部事業報告
- ・平成20年度決算報告並びに監査報告
- ・平成21年度予算案
- ・平成21年度支部事業計画
- ・平成22年度日本人間工学会第51回大会（6月19日～20日）開催について
- ・平成22年度支部大会および総会について

3-2. 東北支部

{支部長:北村 正晴}

(1) 支部主催講演会

本企画では、多様な学術分野での研究、実践活動の中から、広い意味で人間工学に関係を持つテーマについて有識者に解説的な講演をいただく。年間1~2回の開催を計画している。仙台地区での開催に加え、他地域での開催も検討する。

(2) 支部主催研究会

本企画では、人間工学と関わりが深い学術領域の研究者を中心とした研究報告と討論を行う。
年間2~3回の開催を計画している。

(3) 支部役員会 年間3回程度を予定

研究交流会、講演会の企画・運営について討議する。また、それぞれの地域が面している人間工学に関連した研究トピックス、アクティブな会員の掘り起こしと認識共有、さらに連携強化を図る。

(4) その他

研究交流会記録、講演会記録は保存して希望者へ開示する方式を検討する。

それらの記録の中で希望の多いものについては、別途冊子化して配布する方式も試行する。

支部ホームページとメーリングリストと併用して、支部所属会員との双方向コミュニケーションの一層の強化を図る。

3-3. 関東支部

{支部長:堀江 良典}

(1) 第39回関東支部大会

- ・開催日:平成21年12月5日(土)~6日(日)
- ・会 場:武蔵野大学西東京キャンパス
- ・大会長:宇賀神 博 先生

(2) 支部委員会 年2回開催予定

(3) 基礎技法講習会、シンポジウム、卒業研究発表会、企業・研究機関交流、見学会などを開催予定

(4) ニューズレターの発行

(5) 支部役員選挙

3-4. 東海支部

{支部長:横森 求}

(1) 平成21年度日本人間工学会東海支部総会の開催

平成22年3月中に開催予定

(2) 平成21年度日本人間工学会東海支部研究大会の開催

- ・開催日:2009年10月10日(土)
- ・開催場所:金城学院大学
- ・大会長:未定
- 実行委員長:片瀬真由美 金城学院大学教授
- ・基調講演:柏木哲夫氏 金城学院大学学長

(3) 講演会の開催

(4) その他

- 1) 研究部会活動への補助運営
- 2) 見学会等の開催
- 3) 他学会との協賛
- 4) 役員会の開催(2ヵ月に1回程度)

3-5. 関西支部

{支部長:萩原 啓}

(1) 企画・行事等

- 1) 見学会 平成21年10月頃
- 2) 支部大会
開催日:平成21年12月5日(土)
会 場:奈良女子大学
大会長:磯田憲生(奈良女子大学教授)
- 3) 講演会等 平成22年3月頃(支部総会と併催)

(2) 会議・総会等

- 1) 第1回企画幹事会 平成21年6月頃
- 2) 第1回評議員会役員会合同会議 平成21年12月5日(土)(支部大会と併催)
- 3) 評議員選挙 平成21年12月～平成22年1月
- 4) 第2回企画幹事会 平成22年1月頃
- 5) 選挙管理委員会 平成22年2月頃
- 6) 第2回評議員会役員会合同会議 平成22年3月頃(総会と併催)
- 7) 支部総会 平成22年3月頃
- 8) 優秀発表賞授賞式(支部総会時)

3-6. 中国・四国支部

{支部長:大塚 彰}

(1) 理事会開催(3回程度)

- 第1回:2009年5月下旬, 場所:県立広島大学保健福祉学部
- 第2回:2009年11月28日(土), 場所:岡山大学工学部
- 第3回:2009年3月下旬, 場所:県立広島大学保健福祉学部

(2) 支部大会開催

- 第42回日本人間工学会中国・四国支部大会.
開催日:2009年11月28日(土), 場所:岡山大学工学部
大会長:村田 厚生 先生(岡山大学)

(3) 支部講演会開催(2回程度)

- (4) 支部表彰の実施
- (5) 支部役員選挙の実施
- (6) その他

3-7. 九州支部

{支部長:長谷川 徹也}

(1) 活動計画

- 1) 第30回支部評議員会
・開催日:平成21年秋期開催予定
・会 場:未定
- 2) 第30回支部大会および会員総会
・開催日:平成21年秋期開催予定
・会 場:未定
・大会長:未定
- 3) 「九州人間工学第30号」の発送

4. 研究部会活動

4-1. 医療安全研究部会

{部会長:土屋 文人}

〈H19. 4. 1～5 年以内〉

(1) 活動テーマ

我が国において医療安全に対する国民の意識が高まるきっかけとなった患者取り違え手術から10年が経った。この10年間で医療安全を取り巻く環境は大きく変化した。行政、医療機関等の努力により、当初見受けられた初歩的なエラーは減少したものの、医療政策のまずさから医療崩壊が発生し、慢性化した人手不足、あるいはIT導入による新たなエラーの発生等、医療は極めて厳しい環境下におかれている。人間工学的な研究も全体的には増加しているが、未だ基盤整備段階にあるといえる。そこで、本研究部会では以下に示す活動を行う。

- ①製薬企業や医療機器メーカーに人間工学的研究の推進を図る
- ②人間工学研究者に対して医療の分野における研究促進を図る
- ③法で設置が定められている医薬品安全管理責任者や医療機器安全管理責任者に対する研修・教育の実施

(2) 手段・方法

1) 医薬品関係

横幹連合の医薬品インターフェース調査研究会の中心的役割を果たすべく、前年度実施したような製薬企業を対象とした人間工学的研究の普及等を目指した講習会等の開催を行う。また、医療機関の医薬品安全管理責任者に対する研修会等を開催する。

2) 医療機器関係

医療機器等に関する人間工学研究の支援施設の見学会を行う。また、医療機器関連企業を対象とした人間工学的研究のあり方等に関する研修会の開催を計画している。また可能であれば医療機関の医療機器安全管理責任者を対象とした講習会も開催したい。

(3) 期待される成果

厳しい環境にある医療の世界において、製品の改善等による医療スタッフへの側面支援を図るとともに、法で定められた責任者の資質の向上を図る。

4-2. 衣服人間工学部会

{部会長:間壁 治子}

〈H19. 4. 1～5 年以内〉

(1) 研究テーマ

「衣生活の近い未来を考える」

昨年度に引き続き人間と衣服との関係の評価方法を柱に、人体計測はもとより、衣服の設計条件からその機能性や安全性などの評価方法に至るまで諸問題について研究を進めていく予定である。また若手人材の育成も念頭に置き、勉強会や見学会なども開催していく予定である。

(2) 例会の開催 年2～3回程度開催予定。

1) 第1回役員会

開催日：平成21年5月(予定)

場所：共立女子大学

(3) 期待される成果

引き続き、大学・学校関係者だけでなく、アパレル産業など幅広く部会への参加を呼びかける。衣服人間工学の現状をとらえ、最新の研究などの情報収集や勉強会を行う。

また、先に提示された人間工学技術戦略マップにもとづき、当部会の役割を明確にし、研究活動のガイドラインについて役員を中心に検討していく。

4-3. 触覚インタラクション研究部会

{部会長: 山本 栄}

〈H19. 4. 1～5年以内〉

H21 年度は研究活動および広報活動に焦点を当てる。従って、以下の2点を重点目標とし、実施する。

(1) 研究活動の活性化

- ・HCII2009 オーガナイズドセッションの開催

平成21年7月19日(日)～24日(金) San Diego, CA, USA

Development of Tactile & Haptic Interaction (7月24日8:00-10:00)

発表予定数: 7件

- ・第39回関東支部大会にて企画セッションの担当

詳細は検討中

- ・小規模研究会・ワークショップの開催

会員を対象とした小規模研究会、ワークショップを年2回開催

詳細は検討中

(2) 広報活動の充実

- ・ニュースレターの配信

ニュースレター(電子版)を発行。内容は関連研究会、勉強会などの告知、および

触覚研究者によるコラムなどを随時掲載予定。主な目的は、「触覚インタラクション」の研究分野が広いことを周知することにある。

4-4. 航空人間工学部会

{部会長: 垣本 由紀子}

〈H20. 4. 1～5年以内〉

(1) テーマ

航空人間工学に関する知識の普及、情報の共有化を目的として、今年度は「航空分野における疲労に関する最近の研究」をテーマとした研究活動を行う。

(2) 手段・方法

1) 例会等の開催

年間1回の例会(上期に実施)、および下期は関連施設の見学会等の実施を基本とし、会員ならびに関係者間での情報の交換および知識の普及を図る。

2) 委員会・幹事会の開催

適宜委員会・幹事会を開催し、部会活動を円滑に行うと共に、会員の意見を部会活動に反映させるよう努める。

3) 部会ホームページの運営

インターネットを使った部会ホームページを活用して当会の活動内容を広く周知するとともに、活動案内の掲示や会員からの参加申し込みに活用しているところであるが、本年度はより質の高い内容とする目的から、契約プロバイダの変更を行うとともに、部会ホームページのリニューアルを行い、内容の一層の充実を図る。

4) 例会資料の電子ファイル化の継続

昨年同様、本年度開催される例会資料をCD-ROM化し、財団法人日本航空協会が運営する航空図書館に寄贈[※]し、一般の供覧に提供する。

※講演者の承諾が得られたものについて実施。

(3) 期待される成果

航空安全の推進においては、官・民・学および諸外国も含めた多くの組織が関わっているため、これら関係者が交流し、情報を交換する場を当部会が提供することで航空人間工学の知見獲得が可能となるだけでなく、航空の安全の推進へ大きく貢献できるものとする。

4-5. アーゴデザイン部会

{部会長：上田 義弘}

〈H20. 4. 1～5年以内〉

(1)活動テーマ

「ユビキタス時代のユニバーサルデザインー新たな方法論・ロードマップの構築・運用を目指してー」

1) 具体的な活動

当部会は平成18年度より「ユビキタス時代のユニバーサルデザイン方法論」について研究を進めている。昨年度の全国大会、関東支部大会のシンポジウムでは活動成果として、「構造化シナリオ手法」を提唱し、「ビジョン提案型デザインアプローチ」へと展開させた。さらに、3月の合宿研究会ではこの手法の上流工程を対象にしたワークショップを実施。今年度はこれらの成果を受け、具体的な活用事例を収集すると同時に、産業界からの参加者が多い当部会の特性を生かし、部会活動を活発化させ、例会等を収集して出版に向けての活動を促進する。

2) ワーキンググループの活動

今期は部会員や外部協力者との連携を深め、事例による検証を中心とした研究活動を推進し、ユビキタス方法論ワーキンググループとロードマップワーキンググループ活動をより具体化、活性化させる。加えて、2005年度に出版したユニバーサルデザイン実践ガイドラインの事例等が古くなったために、最新の事例を収集し、改定活動を実施する予定である。

3) 独自ドメイン[ergo-design.org]のWebサイトによる広報活動

会員相互の情報交換と部会活動の広報手段として拡充してきた独自ドメインのWebサイトをさらに充実させるため、今期はインフラ整備とHPの改善を実施する予定である。同時に、部会員との連絡手段としてのメーリングリストネットワークの整備・活用も充実させる。

4) 期待される成果

ユビキタス社会における新たなサービスや商品を企画・開発のために、構造化シナリオ手法をはじめ、様々なデザインや人間工学の手法、方法論を提供する共に、それら習得のためのワークショップや活用事例に関する研究会等を開催して検討・議論するための場を提供する事ができる。

また、開発している手法、方法論は、ユビキタス環境下における公平なサービス提供を目指しており、個人個人の特性に応じたアクティビティやインタラクションを描くユニバーサルデザイン方法論でもあり、部会員、学会員だけでなく、開発者やデザイナーの実用的な方法論として各界で活用されると考える。

(2)活動予定

4月 幹事会

5月 第50回全国大会記念アーゴ部会デザイン手法発表準備 WGセッション

6月 第50回全国大会記念アーゴ部会デザイン手法発表

テーマ「ビジョン提案型ユニバーサルデザイン手法」

7月 幹事会、デザイン方法論、ロードマップ、ガイドライン事例改定WGセッション

8月 コンセプト事例発表会

9月 幹事会

10月 見学会、幹事会、デザイン方法論、ロードマップ、ガイドライン事例改定WGセッション

11月 関東支部大会シンポジウム開催

関西支部大会シンポジウム開催

12月 幹事会

1月 デザイン方法論、ロードマップ、ガイドライン事例改定WGセッション

2月 幹事会、デザイン方法論、ロードマップ、ガイドライン事例改定WGセッション

3月 合宿研究会／総会／幹事会

4-6. 感性情報処理・官能評価部会

{部会長: 市原 茂}

〈H20. 4. 1～5年以内〉

(1) 部会が取り組もうとしているテーマ

当部会は、感性情報処理と官能評価に関わる諸問題を基礎から応用まで幅広く、様々な角度から討論し、研究者同士が互いに刺激し合って、優れた感性情報処理、官能評価研究が輩出されるような場を提供することを目的としている。今年度のテーマは、昨年度に引き続き、感覚間相互作用の研究と最新の官能評価手法の研究と普及である。また、若手研究者の育成も目指す。

(2) 手段・方法

感覚間相互作用、共感覚、あるいはVRに関する講演会、最新の官能評価手法に関する講演会、さらに、感性研究全般を俯瞰するような3回の講演会を企画している。これらを通して、部会員に、人間の感覚・知覚・感情・認知のメカニズムに関する先端的な研究を紹介するとともに、感性研究や官能評価の手法についても幅広く検討する機会を提供したい。また、昨年度は、日本基礎心理学会とのジョイントの講演会を開催したが、機会があれば関連する諸学会・研究会との連携を深め、部会員の知識の幅を広げる一助としたい。また、若手研究者の研究意欲を喚起し、具体的なアウトプットを生み出してゆく支援となる場としての機能を充実させるため、新しい手法を勉強する研究会を開催していく。

(3) 期待される成果

充実した講演会や見学会、若手研究者への啓発や手法の会得を目的とした研究会の実施などにより、感性情報処理と官能評価手法についての理解が広まり、工学の様々な分野で人間理解が進む。さらに、若手研究者への啓蒙活動が続けることで、学会における研究活動も盛んになることが期待できる。

4-7. 看護人間工学部会

{部会長: 西田 直子}

〈H20. 4. 1～ 5年以内〉

(1) テーマ

看護人間工学の教育方略に関する研究ならびに人間工学に基づいた看護人間工学の独自性を明確に打ち出し研究成果を公表する。

(2) 手段・方法

1) 第17回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会開催

平成21年8月29日(土)に筑波大学大学院人間総合科学研究科の佐伯由香教授が主催し、筑波大学において第17回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会を計画している。

2) 第18回システム連合大会への参加

平成22年3月12日(金)～3月14日(日)に第18回システム連合大会が開催される予定であり、看護人間工学部会からも幹事会に参加し、大会にも参加する予定である。

3) 日本人間工学会誌に部会から論文を投稿する。

4) 日本人間工学会第50回大会に参加する。

(3) 期待される成果

1) 第17回看護人間工学部公開研究会で公開研究会では、演題10題を目標に部会員に呼びかける。

2) 第50回日本人間工学会への発表を部会員に呼びかけ、参加人数を増やす。

3) 第18回システム連合大会への参加を呼びかける。

4) 看護人間工学研究誌第10巻を発行(平成22年3月)し、部会員に送付する。

5) 看護人間工学部会員の本会への入会促進についても引き続き取り組んでいくこととする。

6) 日本人間工学会学術集会への発表と本会誌の投稿を促進する。

7) 看護人間工学部会のホームページにおいて英語版を設けるよう取り組む。

4-8. 情報社会人間工学研究部会

{部会長:平沢 尚毅}

〈H21. 4. 1～5年以内〉

(1) 平成21年度研究部会テーマ

今年度のテーマとして、「情報通信技術を応用した社会システムに対する人間中心アプローチの可能性と課題」について探求してゆく。これまで、製品や個別システムを対象としてきた人間中心アプローチを、地域における医療、行政、交通などの社会システムを対象を拡張した場合の可能性と課題を明らかにしてゆく。

(2) 活動内容(手段・方法)

1) 研究構想のための会議

新しい研究領域を創出するため、研究のフレームワークから議論する場を作る。

2) シンポジウムの開催

政策立案について、人間中心設計が果たす役割を考察するシンポジウムの場を作る。パネリストの候補として、医療、交通、市民サービスなどに関わっている方々を招き、それぞれの立場から、住民主体のシステム作りのあり方をご議論いただく。

3) 出版計画

部会の成果を出版する計画を開始する。そのために、研究部会のこれまでの実績を整理する。

4) 役員会の開催

年度計画、研究会部会の継続に関する審議を行うために、年に2度、幹事会を開催する予定である。

(3) 期待される成果

医療、交通など私たちの生活に強く関わる社会システムを実現するための政策立案プロセスが、人間中心設計の観点からどのような課題があるのかを明らかにする可能性がある。これらの課題を明確することによって、人間工学の立場からできる改善の方針を見いだすことが可能になる。

4-9. 聴覚コミュニケーション部会

{部会長:江袋 林蔵}

〈H21. 4. 1～5年以内〉

(1) テーマ 人間工学における聴覚研究のミッション

概要 平成21年度は、第2会期初年度に当たる。第1会期の成果を踏まえ、この5年間で人間工学分野における聴覚を中心とした独自の研究領域の探索を具体的に考える。初年度となる当年度は、従来の活動に加え、IEA AETC との交流を図り、国際的視野からこの問題への取り組み方を模索する。

(2) 聴覚研究のミッション研究の手段

1) 研究会の開催・シンポジウムの開催・他学会との交流・IEA AETC との情報交流

2) 幹事会の開催

3) ニュースレターの発行

4) ホームページの更新

(3) 方法

平成20年度展望を踏まえ前年度に準じて活動するが、今年度は特に、IEA AETC との交流を図る。また、音響学会聴覚研究会が九州大学で開催される場合は共催を予定する。

(4) 期待される成果

内外における研究者情報交流の促進により聴覚研究の人間工学におけるミッションを模索する。

4-10. システム大会

{世話人:富田 豊}

(1) 本会の目的

システム部会は、人間をシステム論的立場から研究する部会であり、毎年3月中旬に卒研究生を中心に研究成果を発表している。卒研究生は、日本人間工学会全国大会（毎年6月開催）や支部大会開催の時期ではまだ研究成果がまとまっていない状態なので、3月中旬に開かれる本部会は、社会に巣立つ卒研究生にとって重要な発表の場である。本部会の発表会は「システム大会」と称し、すでに17回開催されている。2泊3日の開催で、学生や教員や研究者も同じ宿舎に泊まりこむことで、他大学の教員や研究者と議論ができるため学生達に高評である。

(2) 活動の内容

平成21年度は数回の幹事会（教員、研究者）と3月中旬の人間工学システム大会を予定している。